高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第8冊

奥の坊遺跡群Ⅷ

（奥の坊遺跡　Ⅶ区）

2010年3月

高松市教育委員会

奥の坊遺跡出土弥生土器（器高 110.5cm）

奥の坊遺跡Ⅵ・Ⅶ区全景（上空から）

例　言

1　本報告書は，高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第８冊で，高松市高松町に所在する奥の坊遺跡Ⅶ区（おくのぼういせきⅦく）の報告を収録した。

2　発掘調査地ならびに調査期間は次のとおりである。
調 査 地：高松市高松町奥ノ坊
発掘調査：平成 11 年 11 月 10 日～平成 12 年３月３日
整理作業：平成 21 年１月５日～平成 21 年 12 月 28 日

3　発掘調査から整理作業及び報告書編集まで高松市教育委員会教育部文化財課（平成 19 年度までは文化部文化振興課）文化財専門員大嶋和則が担当した。

4　発掘調査から整理作業，報告書執筆を実施するにあたって，下記の関係諸機関から御教示を得た。記して厚く謝意を表すものである。（五十音順，敬称略）
香川県教育委員会，古高松土地改良区，地元自治会，地元水利組合

5　発掘調査から整理作業，報告書執筆まで下記の方々の御協力を得た。記して厚く謝意を表すものである。（敬称略）
大野宏和・川部浩司・信吉純恵・増田ゆず・山内康郎（当時徳島文理大学大学院），水田貴士・林田真典（当時徳島文理大学），末光甲正（当時讃岐文化遺産研究会）

6　本調査に関連して，以下の業務を委託発注により実施した。
航空写真測量　　アジア航測㈱
遺物写真撮影　　西大寺フォト

7　挿図として，国土地理院発行１／ 25,000 地形図「高松北部」「高松南部」「五剣山」「志度」を一部改変して使用した。

8　本報告の高度値は T.P. を基準とし，方位は国土座標第Ⅳ系（日本測地系）の北を示す。

9　本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
SD：溝　SH：竪穴住居跡　SK：土坑　SP：柱穴

10　調査は複数年度・複数調査区・複数遺構面になることが予想されたため，遺構番号は調査区番号，遺構面番号，遺構番号（３桁まで）の順に５桁の数字としている。（例：Ⅶ区・第１遺構面・土抗 001 ＝ SK71001）ただし本書平面図では遺構番号（３桁まで）のみで省略している部分もある。

11　本書で使用した図版の縮尺は注記の無い場合は次のとおりである。
遺構：1/40　土器：1/4　石器：1/2

12　発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

本文目次

第１章　調査の経緯と経過
　第１節　事業全体の経緯と経過 …… 1
　第２節　発掘調査の経緯と経過 …… 2
　第３節　整理作業の経過 …… 3

第２章　地理的・歴史的環境
　第１節　地理的環境 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 4

第３章　調査の経緯と経過
　第１節　調査地の概要と基本層序 …… 7
　第２節　包含層出土遺物 …… 7
　第３節　遺構 …… 17

第４章　まとめ …… 61

観察表 …… 63

写真図版 …… 69

報告書抄録 …… 80

挿図目次

第１図　高松市東部運動公園整備事業発掘調査地 …… 2
第２図　周辺遺跡分布図 …… 6
第３図　Ⅶ区南壁土層断面図① …… 8
第４図　Ⅶ区南壁土層断面図② …… 9
第５図　Ⅶ区南壁土層断面図③ …… 10
第６図　Ⅶ区南壁土層断面図④ …… 11
第７図　包含層出土遺物実測図① …… 12
第８図　包含層出土遺物実測図② …… 13
第９図　包含層出土遺物実測図③ …… 14
第10図　Ⅶ区遺構平面図 …… 15
第11図　SH71001 平・断面図および出土遺物実測図 …… 17
第12図　SH71002 ～ 71004 平・断面図 …… 17
第13図　SH71005 平・断面図および出土遺物実測図 …… 18
第14図　SH71005 出土遺物実測図 …… 19
第15図　SH71006 平・断面図および出土遺物実測図 …… 20
第16図　SH71007 平・断面図および出土遺物実測図 …… 21
第17図　Ⅶ区検出土坑平・断面図① …… 23
第18図　Ⅶ区検出土坑平・断面図② …… 25
第19図　Ⅶ区検出土坑平・断面図③ …… 28
第20図　Ⅶ区検出土坑平・断面図④ …… 29
第21図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑤ …… 32
第22図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑥ …… 34
第23図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑦ …… 36
第24図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑧ …… 37
第25図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑨ …… 40
第26図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑩ …… 42
第27図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑪ …… 45
第28図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑫ …… 46
第29図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑬ …… 48
第30図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑭ …… 51
第31図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑮ …… 53
第32図　土坑出土遺物実測図① …… 54
第33図　土坑出土遺物実測図② …… 55
第34図　SD71001 ～ 71003・71005・71006 平・断面図
　およびSD71005 出土遺物実測図 …… 56
第35図　SD71004 平・断面図および出土遺物実測図 …… 57
第36図　SX71001 平・断面図 …… 58
第37図　Ⅲ・Ⅵ・Ⅶ区出土弥生土器実測図 …… 59

挿表目次

表１　東部運動公園整備事業に伴う発掘調査経過 …… 1
表２　奥の坊遺跡Ⅶ区整理作業工程表 …… 3
表３　土器観察表 …… 64
表４　石器観察表 …… 67

写真図版目次

写真1　Ⅵ・Ⅶ区全景（上側の調査区がⅦ区）……70
写真2　調査前状況（北から）……71
写真3　機械掘削状況（北から）……71
写真4　完掘状況（北西から）……71
写真5　調査区南壁土層断面（西から）……71
写真6　包含層掘削風景……71
写真7　遺構検出作業風景……71
写真8　実測風景……71
写真9　SH71001 土層断面（南から）……71
写真10　SH71001 完掘状況（北から）……72
写真11　SH71002 土層断面（南から）……72
写真12　SH71003 完掘状況（南東から）……72
写真13　SH71005 土層断面（南東から）……72
写真14　SH71005 石剣出土状況（南西から）……72
写真15　SH71005 完掘状況（南から）……72
写真16　SH71006 土層断面（北東から）……72
写真17　SH71007 完掘状況（南東から）……72
写真18　SK71005･SK71006 土層断面（北東から）……73
写真19　SK71011 土層断面（南から）……73
写真20　SK71014 土層断面（南東から）……73
写真21　SK71015 土層断面（東から）……73
写真22　SK71014･SK71015 完掘状況（北東から）……73
写真23　SK71016 土層断面（東から）……73
写真24　SK71046 土層断面（北から）……73
写真25　SK71061 土層断面（南西から）……73
写真26　SK71074 土層断面（西から）……74
写真27　SK71076 土層断面（南から）……74
写真28　SK71077 土層断面（南から）……74
写真29　SK71077 完掘状況（北から）……74
写真30　SK71097 土層断面（東から）……74
写真31　SK71104･SK71105 土層断面（東から）……74
写真32　SK71117 土層断面（南から）……74
写真33　SK71117 完掘状況（東から）……74
写真34　SK71119 土層断面（東から）……75
写真35　SK71120 土層断面（南から）……75
写真36　SK71126 土層断面（西から）……75
写真37　SK71127 土層断面（南から）……75
写真38　SK71132 土層断面（北東から）……75
写真39　SK71134 土層断面（東から）……75
写真40　SK71134 完掘状況（南から）……75
写真41　SK71135 土層断面（北から）……75
写真42　SK71138 土層断面（北東から）……76
写真43　SK71159 土層断面（南から）……76
写真44　SK71160 土層断面（南東から）……76
写真45　SD71004 土層断面（北から）……76
写真46　SD71004 土器出土状況（東から）……76
写真47　SD71004 完掘状況（西から）……76
写真48　SX71001 土層断面（南から）……76
写真49　SX71001 完掘状況（北西から）……76
写真50　Ⅶ区出土遺物①……77
写真51　Ⅶ区出土遺物②……78
写真52　Ⅶ区出土遺物③……79

第１章　調査の経緯と経過

第１節　事業全体の経緯と経過

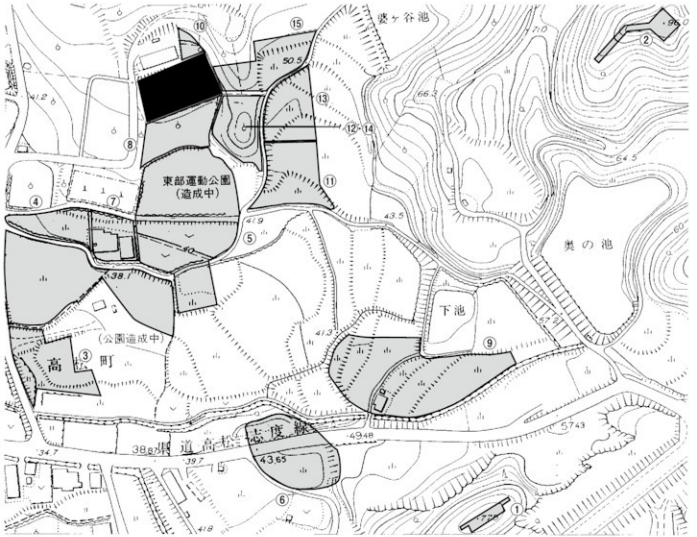
高松市では全市的なレベルでまとまった総合的なスポーツレクリエーション活動拠点として高松市東部運動公園（当時仮称）の整備が計画され，平成５年度には基本構想・基本計画が策定された。運動公園整備予定地となったのは高松市東部の丘陵地帯，高松町の字奥ノ坊・大空・金川潤地区で，総事業面積は 47.2ha に及ぶ広大なものである。整備予定地には香川県の弥生後期を代表する大空遺跡をはじめ，奥ノ坊古墳およびスベリ古墳の存在が知られており，この他にも未周知の埋蔵文化財が所在する可能性は高いと考えられた。このため工事に先立ち整備予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて都市開発部（当時）公園緑地課と協議を行い，事前に試掘調査を実施し，埋蔵文化財の包蔵状況を明らかにすることで合意した。

高松市教育委員会では，平成７年度から用地買収の完了した土地について試掘調査を実施した。平成７年度には大空古墳，金川潤古墳，奥ノ坊２号墳（その後の本調査で 3･4 号墳を追加）を発見した。これを受け，再度公園緑地課と埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い，工事の前に記録保存を行うことで合意した。試掘調査はその後も継続して行い，平成９年度までに整備予定地内に 203 箇所のトレンチを掘削した。これにより，周知の埋蔵文化財包蔵地であった大空遺跡，奥ノ坊古墳，スベリ古墳の３遺跡については，既に消滅しており事前の保護措置の必要がないことが判明した。一方，新たに奥の坊権現前遺跡，奥の坊遺跡，奥の坊奥池西遺跡，大空北遺跡の４集落遺跡が発見された。新たに発見された遺跡の総面積は約 30,000㎡である。これらの遺跡についても順次，公園緑地課と協議を行い，工事前に記録保存を行うことで合意した。

一方，運動公園整備工事は平成９年度から洪水調整池の工事を行い，平成 12 年度後半から全体の造成工事を行うことが予定されていた。このため洪水調整池部分の発掘調査を早期に着手し，平成 12 年度前半までに全調査を終えることとした。調査対象地は遺跡総面積約 30,000㎡のうち現道及び現水路を除く約 26,910㎡とした。その後，工事計画が変更になり，平成 14 年度後半から全体造成工事が開始されることになり，発掘調査についても平成 14 年度前半まで期間を延長することとなった。このため，当初は掘削深度が深く，調査面積も広大で，調査期間も短いことから，掘削業務を委託発注して調査を実施していたが，平成 11 年度より比較的掘削深度の浅い部分については直営で調査を行った。また，平成 15 年１月には運動公園整備工事に使用する粘土を近傍の新田町久米池から採取することとなり，同地に所在する久米池遺跡についても工事に合わせて調査を実施した。

表１　東部運動公園整備事業に伴う発掘調査経過

番号	遺跡名	調査区	調査期間	調査面積（㎡）	調査方法	報告書
	試掘調査	全域	1995.8.4~1997.10.8	2,997	直営	
①	大空古墳	全域	1996.2.14~1996.2.23	150	直営	Ⅰ（1999.3 刊）
②	金川潤古墳	全域	1996.2.23~1996.3.8	300	直営	
③	奥の坊権現前遺跡	Ⅰ～Ⅲ	1997.2.10~1997.3.24	1,560	委託	Ⅱ（2004.3 刊）
④	奥の坊権現前遺跡	Ⅳ～Ⅵ	1997.10.7~1998.3.13	5,200	委託	
⑤	奥の坊遺跡	Ⅰ・Ⅱ	1998.9.14~1999.2.19	4,900	委託	Ⅴ（2006.12 刊）
		Ⅲ・Ⅳ				未刊
⑥	大空北遺跡	全域	1999.4.16~1999.6.4	2,200	直営	Ⅲ（2004.12 刊）
⑦	奥の坊遺跡	Ⅴ	1999.5.28~1999.7.13	700	直営	Ⅵ（2007.12 刊）
⑧	**奥の坊遺跡**	Ⅵ	**1999.11.10~2000.3.3**	**2,300**	委託	未刊
		Ⅶ			**委託**	**本書**
⑨	奥の坊奥池西遺跡	全域	2000.4.17~2000.7.25	3,600	直営	Ⅲ（2004.12 刊）
⑩	奥の坊遺跡	Ⅷ	2000.10.2~2000.12.28	300	直営	Ⅶ（2010.3 刊）
⑪	奥の坊遺跡	Ⅸ	2000.10.5~2001.1.12	1,180	委託	Ⅶ（2010.3 刊）
⑫	奥ノ坊古墳群（測量）	全域	2001.6.5~2001.6.27	―	直営	Ⅳ（2006.3 刊）
⑬	奥の坊遺跡	Ⅹ	2001.8.27~2002.1.18	1,320	委託	Ⅶ（2010.3 刊）
⑭	奥ノ坊古墳群	全域	2001.9.4~2001.11.28	1,020	直営	Ⅳ（2006.3 刊）
⑮	奥の坊遺跡	ⅩⅠ	2002.4.2~2002.7.5	1,180	直営	Ⅶ（2010.3 刊）
	久米池遺跡	全域	2003.1.8~2003.1.21	200	立会	Ⅳ（2006.3 刊）



第１図　高松市東部運動公園整備事業発掘調査地

第２節　発掘調査の経緯と経過

運動公園予定地内では，平成７年度から用地買収の進捗状況に応じて試掘調査を実施した。奥の坊遺跡は平成８年度の試掘調査によりその所在が明らかになったもので，遺跡は事業地の南緩斜面一体に広がりを見せ，その面積は約12,000㎡にのぼることが判明した。

遺跡の南西部が洪水調整池工事予定地内に含まれ，平成11年度工事着手予定であったことから，平成10年度末までの発掘調査が望まれた。また，運動公園全体の造成が平成12年度下半期に予定されていたことから，その他の部分についても早期の調査が望まれた。都市開発部公園緑地課と協議を行った結果，遺跡の南西部を平成10年度，北東部を平成11年度で調査を実施することで合意した。しかしながら，平成９年度において，一部事業計画の変更があり，洪水調整池は平成12年度，造成は平成14年度下半期着手となることが決定したことから，平成10年度から５ヵ年をかけて発掘調査を実施することとなった。また，調査費用軽減のため一部直営方式により調査を実施した。

本報告書で掲載した調査区はⅦ区であり，掘削については業務委託して調査を実施した。なお，調査面積は1,200㎡で調査期間は平成11年11月10日～平成12年３月３日である。

第３節　整理作業の経過

東部運動公園整備に伴う発掘調査は平成14年度まで行われた。このため，各調査年度の翌年度に土器洗浄や接合等の基礎整理を行うのみで，本格的な整理作業は全調査終了後の平成14年度後半から実施した。奥の坊遺跡Ⅶ区の整理作業は，平成12年度において基礎整理を実施し，本格的な整理作業は平成21年１月から12月において実施した。以下に工程表を掲載する。

表２　奥の坊遺跡Ⅶ区整理作業工程表

	平成12年度	平成20年度			平成21年度								
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
基礎整理													
実　測													
トレース													
レイアウト													
報告書編集													

第２章　地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

高松市は香川県のほぼ中央に位置し，瀬戸内海に面している。高松市域の大部分は高松平野によって占められている。平野の境界を画する低位山塊及び屋島，紫雲山等の独立山塊は，侵食の容易な花崗岩層（三豊層群）が風化侵食に抵抗の強い安山岩層に覆われていたことによって侵食開析から取り残されて形成されたメサまたはビュートと呼ばれるもので，讃岐の象徴的な田園風景の象徴となっている。

高松平野は四国北東部に東西に連なる讃岐山脈に端を発する中小河川により形成された沖積地である。高松平野には，西から本津川，香東川，春日川，新川といった河川が瀬戸内海に向けて北流している。本調査区の位置する古高松（高松町・新田町・春日町）地区は，この中の春日川，新川にほど近い地域である。春日・新川の両河川は水量に乏しく，平野中央部を流れる香東川のように大規模な扇状地は形成していない。また，古高松地区の北部は，江戸時代初期の干拓により陸地化されたものであり，寛永10年（1633）の『讃岐国絵図』によると，その頃の海岸線はかなり内陸に入り込んでおり，古高松地区の北に位置する屋島は島として描かれている。北を屋島に面した海岸（旧地形による），東を立石山山塊，南を久米山丘陵，西を春日川によって限られた高松平野北東部の一角は，古代・中世を通じて「高松」（讃岐国山田郡高松郷）と呼ばれたが，天正16年（1588）の生駒親正による高松城築造以後は，城下町の高松に対して「古高松」と呼称されてきた。江戸時代以前の古高松の地形を推定できる史料として古老の話を元に香西成資が享保４年（1719）に編纂した『南海通記』がある。その中に天正10年（1582）の頃として「…春日ノ里ニ至ル，此所ハ屋島山，石清尾山両受ノ間，入海ニテ山田郡小山ノ下マデ潮サシ来ル，遠干潟ナ春日里ト木太郷ノ間，海ノ中道アツテ通用ス。…」との記述がある。ここでいう小山とは，現在の高松市新田町小山にあたると考えられ，この小山近辺まで海岸線あるいは河口が湾状に入り込んでいたと想定できる。

高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として発掘調査が行われた「奥ノ坊」は高松町の北東端にあたり，地形的には旧高松市と旧牟礼町（現高松市牟礼町）にまたがる標高100～200ｍの山塊の，西側低丘陵地の尾根および谷部に位置する地域である。現在はかなり内陸的な様相を示すが，上記の推定海岸線から考えると海岸から１～1.5kmと非常に近かったと推測される。

第２節　歴史的環境

今回の発掘調査事業地は高松平野の東部にあたり，平野北西部に位置する石清尾山塊とともに遺跡の多い地帯として早くから認識されてきた地域である。

当事業地周辺の遺跡の大部分は弥生時代から古墳時代にかけてのものであるが，旧石器・縄文時代の遺物・遺構も若干知られている。旧石器時代については，本格的な遺構は知られていないが，久米池南遺跡においてナイフ型石器が出土している。縄文時代については，小山・南谷遺跡において落とし穴状の土坑が14基検出されているほか，旧河道中から縄文土器が出土している。晩期の当事業地においても奥の坊奥池西遺跡において落とし穴と考えられる遺構が検出され，縄文土器が出土しており，小山・南谷遺跡との関連が注目される。

弥生時代前期の遺跡としては，周辺では集落遺跡は現在のところ確認されていない。諏訪神社遺跡において前期後半頃の環濠と考えられる遺構が検出されているにすぎない。環濠内には生活痕跡が確認されておらず，特異な遺構として位置づけられている。中期前半では当事業で確認された奥の坊遺跡があげられる。南向きの緩斜面に営まれた集落で，数多くの竪穴住居を検出している。また，多量の土器・石器のほか分銅形土製品や擬朝鮮系無文土器等も出土している。また，丘陵部を東に越えた羽間遺跡では細形銅剣が出土している。中期後半では久米山東個丘陵上に立地する高地性集落の久米池南遺跡がある。高床建物を描いた絵画土器や鉄斧が出土したことでも著名である。後期前半では，現在は消滅してしまったが香川県の弥生時代後期前半の標式土器が出土したことで知られる大空遺跡が当事業地内に所在した。また，当事業地内の奥の坊権現前遺跡をはじめ，大空南遺跡，南谷遺跡，小山・南谷遺跡がある。いずれの遺跡においても製塩土器が多量に出土したことが知られている。当事業地西方の小平野にある原遺跡も香川県の弥生時代後期後半の標式土器が出土したことで知られる。また，原中村遺跡では，漆が付着した土器が多量に出土しており，漆を採取していたと考えられている。

古墳時代の集落遺跡は周辺では確認されていない。しかしながら，古墳は多く築造されている。高松平野では積石塚として有名な石清尾山古墳群があるが，当遺跡の所在する平野東部では盛土古墳しか見られない。その中では諏訪神社遺跡で検出された３基の竪穴式石槨がある。また，前期の高松市茶臼山古墳は全長75ｍの前方後円墳で，後円部には竪穴式石槨が２箇所設けられており，第１主体からは鍬形石２点，画文帯神獣鏡１点などが出土している。鍬形石は香川県内唯一の出土例で，その石槨構造とともに畿内的な特徴を持った古墳との評価を受ける要素のひとつとなっている。中期では屋島の北端に所在する長崎鼻古墳において，阿蘇溶結凝灰岩製の石棺が出土している。後期では複室構造の小山古墳，天井石が巨大な１石の石材で構築された山下古墳，Ｔ字型の石室をもつ讃岐本神社古墳等特異な古墳が多い。中でも香川県で唯一石棚をもち，畿内型の亀甲型陶棺を埋葬主体とし，承盤付銅鏡を副葬する久本古墳の存在は特筆できる。この他，小規模な長尾古墳群，岡山古墳群，岡山小古墳群，漆谷古墳群といった群集墳も見られる。当事業地においても，奥ノ坊古墳群，大空古墳，金川湧古墳の調査が実施されているが，いずれも損壊が著しく，詳細は不明である。

古代の遺跡では，『日本書紀』にも記載されている古代山城屋嶋城の存在が知られている。近年の調査で城門遺構や石垣が検出された。また新田本村遺跡と小山・南谷遺跡では高松平野の条里地割に先行し，方向の異なる条里地割が発見されている。この先行条里地割が当事業地内の奥の坊権現前遺跡及び奥の坊遺跡においても確認されており，同地割の東端であることが判明している。古代寺院としては山下廃寺がある。古式の瓦が採集されているが，発掘調査は行われていないので詳細は不明である。また屋島北嶺の千間堂において10～11世紀と考えられる礎石建物跡及び集石遺構が検出されており，屋島寺の前身遺構と考えられている。

中世に入ると高松平野でも武士の台頭が目立つ。中央政権との関わりも深く，数多くの戦いが行われている。まず，源氏と平氏が屋島で戦い，那須与一や佐藤継信の戦いぶりが『平家物語』に記述され，今日まで伝えられている。南北朝期には讃岐の守護となった高松（舟木）頼重が高松（喜岡）城を本拠としたが，足利方の将細川定禅の攻撃により落城したことが『太平記』に見える。その後も織豊期まで周辺は高松氏の勢力圏であったが，高松（喜岡）城は秀吉の四国平定時に落城している。なお，高松（喜岡）城周辺には地頭名・公文といった中世に由来すると考えられる小字名も残っている。中世の遺跡はあまり知られていないが，16世紀から17世紀初頭の溝で区画された屋敷地を検出した川南・西遺跡がある。当事業地内でも中世の遺物は出土するものの，遺構としては奥の坊奥池西遺跡において溝が検出された程度である。

中世までは新田町小山近辺まで海岸線が湾状に入り込んでいたが，近世になると讃岐の領主生駒氏のもと，干拓・新田開発が行われるようになった。特に，西嶋八兵衛による干拓によって屋島が陸続きとなった。生駒氏転封後に高松藩主となった松平頼重はさらに干拓・新田開発を進めるが，源平合戦の旧跡が消えかけていることを惜しみ，陸続きとなった部分を掘り直し，干潮時に潮が東西両方向へ引く「相引き」の復旧を行っている。近世の遺跡としては，川南・東遺跡において屋敷地が検出されている。当事業地内では奥の坊遺跡において一部近世の屋敷地を検出しているにすぎない。

閑話休題であるが，北方屋島壇ノ浦をめぐる一帯に治承・寿永年間に戦われた源平合戦に因む史跡（安徳天皇社・菊王丸の墓・佐藤継信の墓など）が残されており，地域の人々の間で伝えられてきた。また，屋島壇ノ浦の入り込んだ部分にある小高い丘の王墓は，景行天皇の皇子・神櫛王の墓として宮内庁の管理となっている。

第２図　周辺遺跡分布図（S=1/40,000）

1	**奥の坊遺跡**	2	奥ノ坊１号墳	3	奥ノ坊２～４号墳	4	奥の坊縄現前遺跡	5	奥の坊奥池西遺跡	6	大空北遺跡
7	金川原古墳	8	大空古墳	9	スベリ古墳	10	大空遺跡	11	大空裏遺跡	12	長崎鼻古墳
13	千間堂跡	14	屋敷城	15	浦生石塁	16	見島寺	17	浜北１～３号墳	18	中浜北古墳
19	見島中央西古墳	20	屋敷中央東古墳	21	金刀比羅宮社城古墳	22	東山地古墳	23	見島経塚	24	湯ノ谷１～３号墳
25	高松（森岡）城跡	26	長尾１～３号墳	27	小山・南谷遺跡	28	新田本村遺跡	29	川南・東遺跡	30	川南・西遺跡
31	小山古墳	32	山下古墳	33	山下寺跡	34	岡山中古墳群	35	岡山古墳群	36	諸谷古墳群
37	南谷遺跡	38	久木古墳	39	久米池遺跡	40	久米池南遺跡	41	高松市郷土山古墳	42	諏訪神社古墳
43	諏本神社古墳	44	羽間遺跡	45	原中村遺跡	46	原遺跡				

第３章　調査の経緯と経過

第１節　調査地の概要と基本層序（第３～６図）

奥の坊遺跡は東から西に延びる丘陵の南向きの緩斜面に立地しているが，さらに細かく見ると，丘陵から南へ派生する小さな２つの尾根に東西を挟まれた谷状部分が集落域である。Ⅶ区はこの集落域の北端で，最高所部分に位置する。調査前の現地表面の標高は 46.5 ～ 49.6 mである。

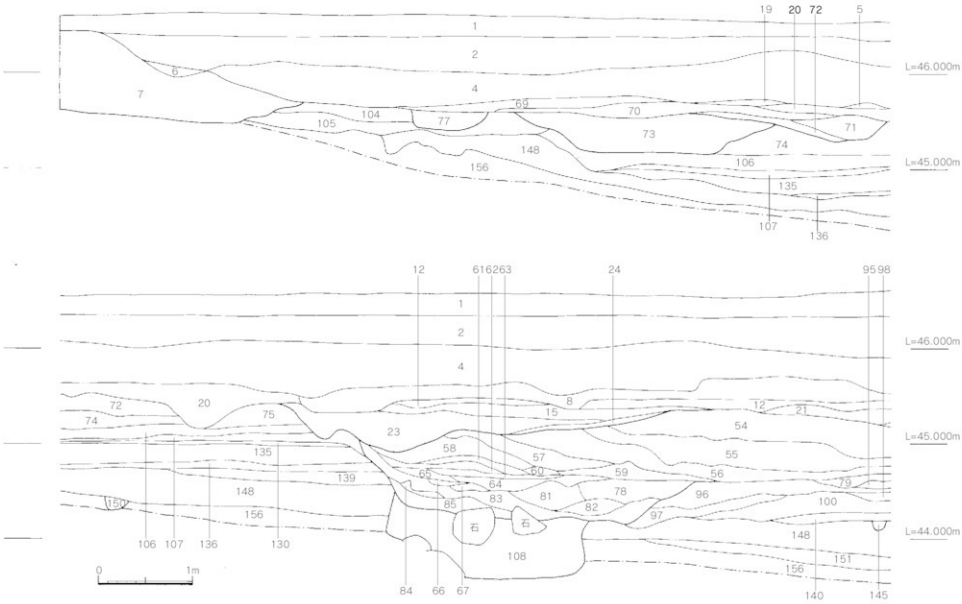
調査に際しては，調査区の南壁において土層観察を行った。現地表面以下 20cm は耕作土層（１層）であり，その下層にはいずれも厚さ 30 ～ 50cm の灰黄色粗砂層（２層）や花崗土（４層）が認められ造成土と考えられる。さらにその下層に灰色から黒色系統の砂混粘質土層（５～ 73 層）が堆積しているが，花崗土も混じっていることから，73 層までは造成に伴う堆積で，灰褐色砂混粘質土層（74 ～ 76 層）以下が旧地形に伴うものと考えられる。77 ～ 130 層までは緑灰・青灰・オリーブ灰色の凹凸の激しく細かい堆積層であり，耕作等に伴うものと考えられる。その下層に 131 ～ 144 層に見られるような黄褐色あるいは褐灰色の薄い水平堆積が認められ，谷状地形の堆積土と考えられる。その下部に黒褐色砂混粘質土層（148・149 層）が堆積しており，遺物を多く包含する。148 層上面からは 145 ～ 147 層のピット状の掘り込みが認められる。なお，遺物包含層の下部のにぶい黄橙色細砂～粗砂層（155）が地山と考えられる。

遺構面は，遺物包含層上面と地山上面の２面で検出した。しかし，遺物包含層上面で検出した遺構面は遺構密度が低く，周辺の調査成果から判断して近世以降の遺構面と考えられることから調査対象とはせず，地山直上の遺構面１面のみで調査を行った。遺構面は東西が高く，中央部が低くなっており，標高は 43.7 ～ 48.0 mである。竪穴住居跡７棟，土坑 161 基，溝６条，方形周溝状遺構１基，ピット多数等を検出した。その出土遺物から概ね弥生時代中期前半の遺構面と考えられる。

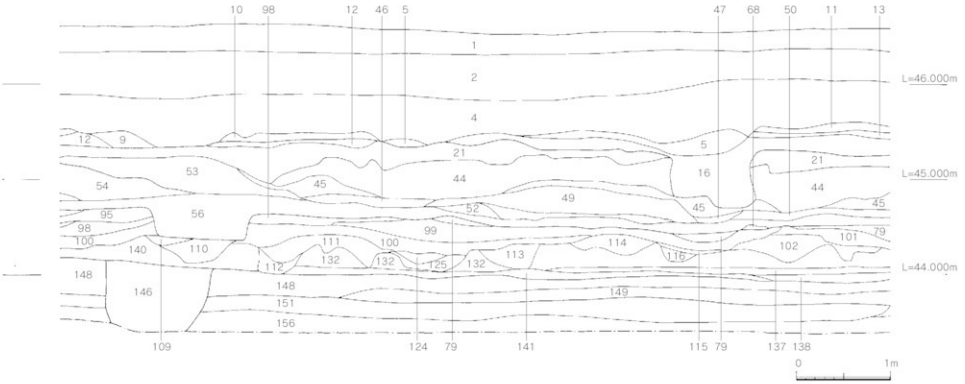
なお，旧地形からの掘り込み（108 層）に 30 ～ 50cm の花崗岩が散在して認められている。調査地周辺は須恵器平瓶を出土したことで知られる奥ノ坊１号墳（旧名：奥ノ坊古墳）が所在したとされ，横穴式石室の石材が廃棄された可能性も考えられる。

第２節　包含層出土遺物（第７～９図）

集落域の最上部であることから，他の調査区に比べるとその量は少ないが，包含層から多量の遺物が出土しており，図示可能なものを第７～９図に掲載した。１～ 44 は弥生土器，45 は土師器である。１～３は蓋で，１はつまみ部で，内外面ともナデである。２もつまみ部で外面タテハケ，内面板ナデで，つまみ上面から斜め方向に２個１対の紐通し穴と考えられる小円孔が見られる。３は水平に開く口縁部で，内外面ともナデである。４～ 17 は甕で，くの字の口縁をもつものが主体であり，調整もミガキを施すものが多い。18 は鉢で，内外面ともタテヘラミガキである。19 ～ 25 は壺の口縁部である。19・20 は直立する頸部から外反しながら口縁に至る。21・23 は直立する頸部から口縁部が外方へ屈曲する。22 は直立する口縁部をもち，外面タテハケ，内面指頭圧が施されている。24 は無頸壺の口縁部を外反させることで広口状にした形態であり，外面タテハケのちヨコヘラミガキで，頸部は指頭ナデ，内面指頭圧である。25 は無形壺で，外面ナデ，内面ヨコヘラミガキで，外面には櫛描直線文と櫛描波状文が施されている。26 は高杯脚部である。27 は土器片転用の紡錘車で，円孔は見られない。28 はバケツ形の鉢で，外面は入念なミガキが施されている。29 ～ 44 は底部で，外面にタテヘラミガキを施すものが多い。29・30 は底面に焼成前の穿孔が見られる。31 は底面の内外面から焼成後の穿孔が見られるが，いずれも途中放棄されている。34 の内面は煤が付着している。45 は土師器の皿である。S1 ～ S9 はサヌカイト製の石鏃である。S1 は凸基式である。S2 は細身の形態である。S3 は先端部と基部を欠いている。S4 ～ S6 は凹基式である。S7 ～ S9 は調整が少なく，未製品と考えられる。S10 は石槍の基部である。S11・S12 はサヌカイト製の石庖丁で，S12 は抉りが見られる。S13 は安山岩で，背部と刃部をわずかに調整しており，石庖丁と考えられる。S14 ～ S16 はサヌカイト製の削器である。S17 ～ S19 および S22 ～ S26 は調整痕の見られるサヌカイトの剥片である。S20 はサヌカイトの素材剥片である。S21 はサヌカイト製の石鏃の一部と考えられる。S27 は緑泥片岩製の柱状片刃石斧である。S28 は砂岩製の石皿である。S29 は砂岩製の砥石で，窪みが見られる。

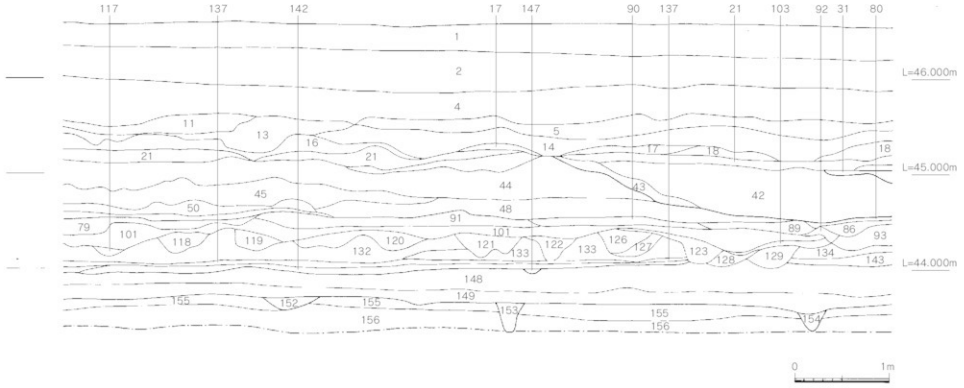


第 3 図　Ⅶ区南壁土層断面図①



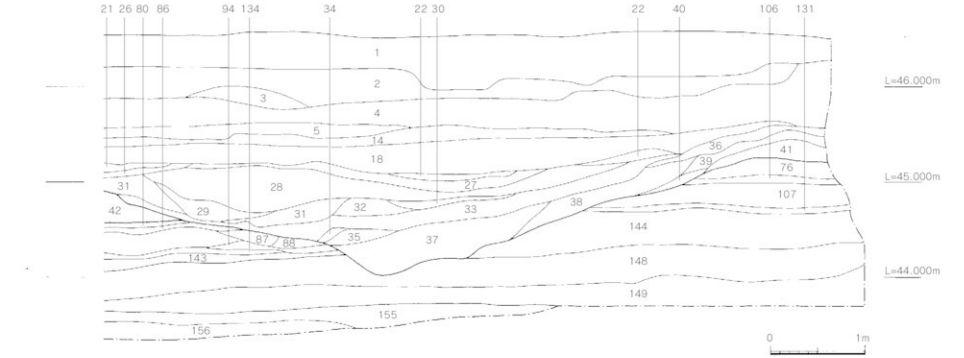
1	耕作土			19	2.5Y5/1	黄灰	砂混粘質土	37	5Y3/1	オリーブ黒	砂混粘質土
2	2.5Y6/2	灰黄	粗砂	20	2.5GY5/1	オリーブ灰	砂混粘質土	38	7.5Y4/1	灰	砂混粘質土
3	10YR5/2	灰黄褐	粗砂	21	2.5GY7/1	暗オリーブ灰	砂混粘質土	39	5Y2/1	黒	砂混粘質土
4	花崗土			22	2.5Y4/2	暗灰黄	砂混粘質土	40	7.5Y3/1	オリーブ黒	砂混粘質土
5	10YR3/3	暗褐	砂混粘質土	23	2.5Y5/2	暗灰黄	砂混粘質土	41	2.5Y4/2	暗灰黄	砂混粘質土
6	10YR7/2	にぶい黄橙	粗砂	24	7.5YR5/2	灰褐	砂混粘質土	42	2.5Y3/2	黒褐	砂混粘質土
7	7.5Y5/1	灰	砂混粘質土	25	2.5Y3/1	黒褐	砂混粘質土	43	2.5Y3/1	黒褐	砂混粘質土
8	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土	26	10YR7/3	にぶい黄橙	砂混粘質土	44	10YR4/2	灰黄褐	砂混粘質土
9	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土	27	7.5GY4/1	暗緑灰	砂混粘質土	45	10YR5/1	褐灰	砂混粘質土
10	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土	28	2.5GY3/1	暗オリーブ灰	砂混粘質土	46	7.5YR4/2	灰褐	砂混粘質土
11	花崗土			29	5Y4/1	灰	砂混粘質土	47	10BG4/1	暗青灰	砂混粘質土
12	花崗土			30	2.5GY3/1	暗オリーブ灰	砂混粘質土	48	10YR5/4	にぶい黄褐	砂混粘質土
13	2.5Y4/1	黄灰	砂混粘質土	31	5Y3/2	オリーブ黒	粗砂	49	10YR4/2	灰黄褐	砂混粘質土
14	5Y 3/1	オリーブ黒	砂混粘質土	32	10Y3/1	オリーブ黒	砂混粘質土	50	2.5Y5/2	暗灰黄	砂混粘質土
15	7.5GY6/1	緑灰	砂混粘質土	33	5BG5/1	青灰	砂混粘質土	51	10YR5/2	灰黄褐	砂混粘質土
16	花崗土			34	5BG3/1	暗青灰	砂混粘質土	52	10YR5/3	にぶい黄褐	砂混粘質土
17	花崗土			35	10G3/1	暗緑灰	砂混粘質土	53	10YR3/2	黒褐	砂混粘質土
18	花崗土			36	10Y3/1	オリーブ黒	砂混粘質土	54	10YR3/1	黒褐	砂混粘質土

第 4 図　Ⅶ区南壁土層断面図②



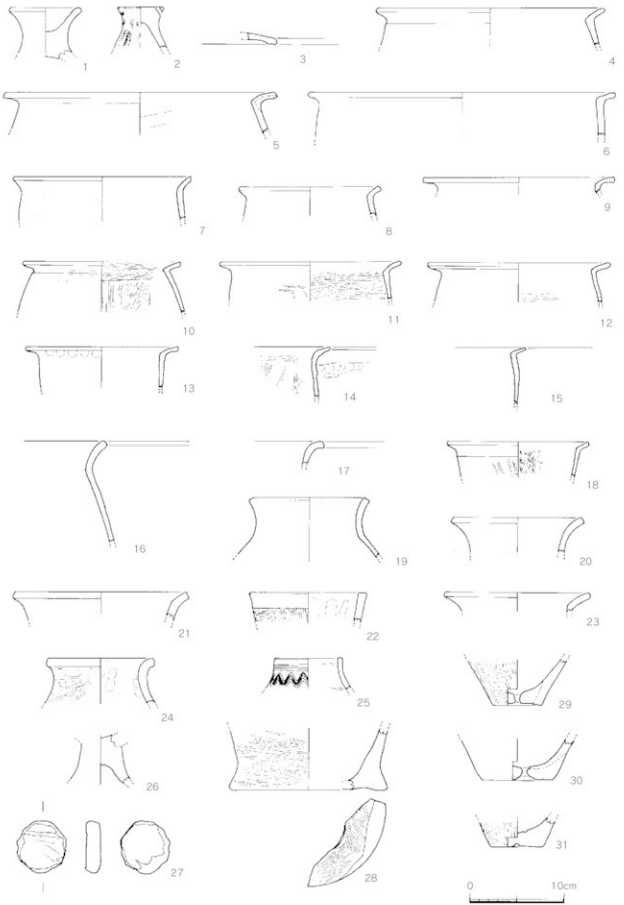
55	10YR5/2	灰黄褐	砂混粘質土	72	10YR3/2	黒褐	砂混粘質土	89	10YR6/2	灰黄褐	粘質シルト
56	10YR4/3	にぶい黄褐	砂混粘質土	73	7.5YR4/1	褐灰	砂混粘質土	90	5G6/1	緑灰	砂混粘質土
57	10YR5/3	にぶい黄褐	粘質シルト	74	7.5YR4/2	灰褐	砂混粘質土	91	7.5GY6/1	緑灰	砂混粘質土
58	花崗土			75	7.5YR4/2	灰褐	砂混粘質土	92	2.5GY5/1	オリーブ灰	砂混粘質土
59	花崗土			76	7.5YR4/2	灰褐	砂混粘質土	93	7.5Y5/2	灰オリーブ	砂混粘質土
60	10YR5/2	灰黄褐	砂混粘質土	77	2.5Y3/1	黒褐	砂混粘質土	94	10Y4/1	灰	砂混粘質土
61	5GY5/1	オリーブ灰	砂混粘質土	78	2.5GY3/1	暗オリーブ灰	砂混粘質土	95	N 6/0	灰	砂混粘質土
62	7.5YR5/3	にぶい褐	砂混粘質土	79	2.5Y5/2	暗灰黄	砂混粘質土	96	10GY2/1	緑黒	粘質シルト
63	2.5GY5/1	オリーブ灰	砂混粘質土	80	2.5GY5/2	暗灰黄	砂混粘質土	97	2.5GY5/1	オリーブ灰	粘質シルト
64	10GY4/1	暗緑灰	砂混粘質土	81	5B4/1	暗青灰	砂混粘質土	98	2.5GY5/1	オリーブ灰	砂混粘質土
65	10Y4/2	オリーブ灰	砂混粘質土	82	10G4/1	暗緑灰	砂混粘質土	99	5BG6/1	青灰	砂混粘質土
66	10YR3/3	暗褐	砂混粘質土	83	5G5/1	緑灰	砂混粘質土	100	10Y4/1	灰	砂混粘質土
67	2.5Y7/3	浅黄	細砂	84	7.5YR7/4	にぶい橙	砂混粘質土	101	5BG5/1	青灰	砂混粘質土
68	2.5Y3/1	黒褐	砂混粘質土	85	10YR3/4	にぶい黄褐	砂混粘質土	102	7.5Y4/1	灰	砂混粘質土
69	2.5Y6/1	黄灰	粗砂	86	5BG3/1	暗青灰	砂混粘質土	103	5Y4/3	暗オリーブ	砂混粘質土
70	7.5Y5/1	灰	砂混粘質土	87	5GY3/1	暗オリーブ灰	砂混粘質土	104	7.5GY6/1	緑灰	砂混粘質土
71	2.5Y4/2	暗灰黄	砂混粘質土	88	2.5GY3/1	暗オリーブ灰	砂混粘質土	105	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土

第 5 図　Ⅶ区南壁土層断面図③

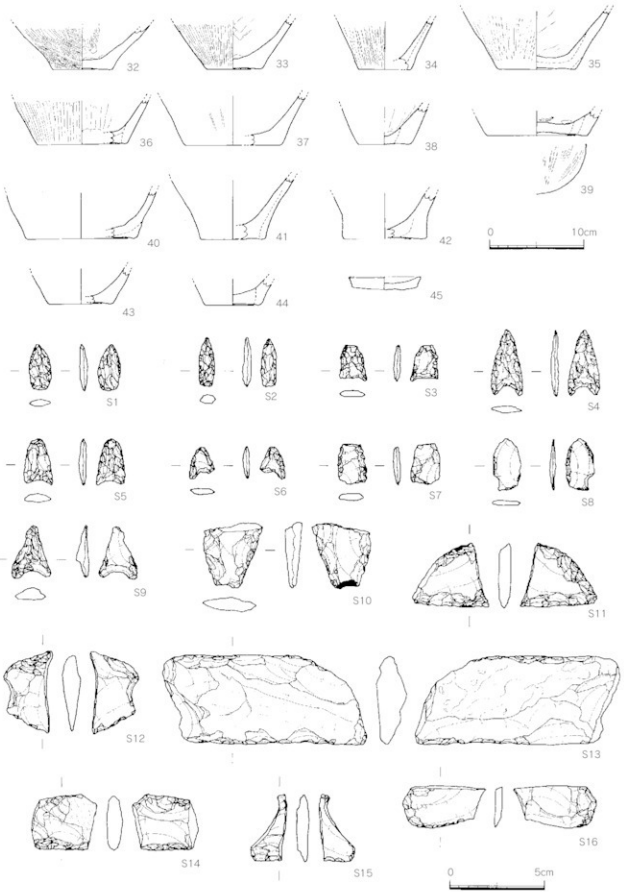


106	10BG6/1	青灰	砂混粘質土	123	2.5GY4/1	暗オリーブ灰	砂混粘質土	140	2.5Y5/3	黄褐	砂混粘質土
107	7.5YR6/6	橙	砂混粘質土	124	5B4/1	暗青灰	砂混粘質土	141	7.5YR4/1	褐灰	砂混粘質土
108	2.5Y7/4	浅黄	粘土	125	5PB5/1	青灰	砂混粘質土	142	10YR6/1	褐灰	砂混粘質土
109	花崗土			126	2.5GY4/1	暗オリーブ灰	砂混粘質土	143	10YR6/1	褐灰	砂混粘質土
110	10G5/1	緑灰	砂混粘質土	127	2.5Y5/2	暗灰黄	細砂	144	10YR6/1	褐灰	砂混粘質土
111	5G5/1	緑灰	砂混粘質土	128	2.5Y4/2	暗灰黄	砂混粘質土	145	花崗土		
112	5Y4/1	灰	砂混粘質土	129	7.5Y5/1	灰	砂混粘質土	146	2.5Y3/1	黒褐	砂混粘質土
113	5PB5/1	青灰	砂混粘質土	130	7.5YR5/3	にぶい褐	砂混粘質土	147	10YR7/2	にぶい黄橙	粗砂
114	5B6/1	青灰	砂混粘質土	131	10YR5/4	にぶい黄褐	砂混粘質土	148	10YR3/1	黒褐	砂混粘質土
115	7.5YR4/3	褐	砂混粘質土	132	2.5Y5/3	黄褐	砂混粘質土	149	2.5Y3/1	黒褐	砂混粘質土
116	5Y3/2	オリーブ黒	砂混粘質土	133	10YR5/4	にぶい黄褐	砂混粘質土	150	2.5Y4/1	黄灰	砂混粘質土
117	7.5GY6/1	緑灰	砂混粘質土	134	10YR5/4	にぶい黄褐	砂混粘質土	151	10YR6/3	にぶい黄橙	粗砂
118	2.5GY6/1	オリーブ灰	砂混粘質土	135	7.5YR5/1	褐灰	砂混粘質土	152	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土
119	2.5GY6/1	オリーブ灰	砂混粘質土	136	7.5YR4/3	褐	砂混粘質土	153	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土
120	2.5GY4/1	暗オリーブ灰	砂混粘質土	137	10YR6/4	にぶい黄橙	砂混粘質土	154	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土
121	2.5GY4/1	暗オリーブ灰	砂混粘質土	138	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土	155	10YR7/2	にぶい黄橙	細砂～粗砂
122	2.5GY4/1	暗オリーブ灰	砂混粘質土	139	7.5YR4/1	褐灰	砂混粘質土	156	2.5Y8/4	淡黄	シルト～粘土

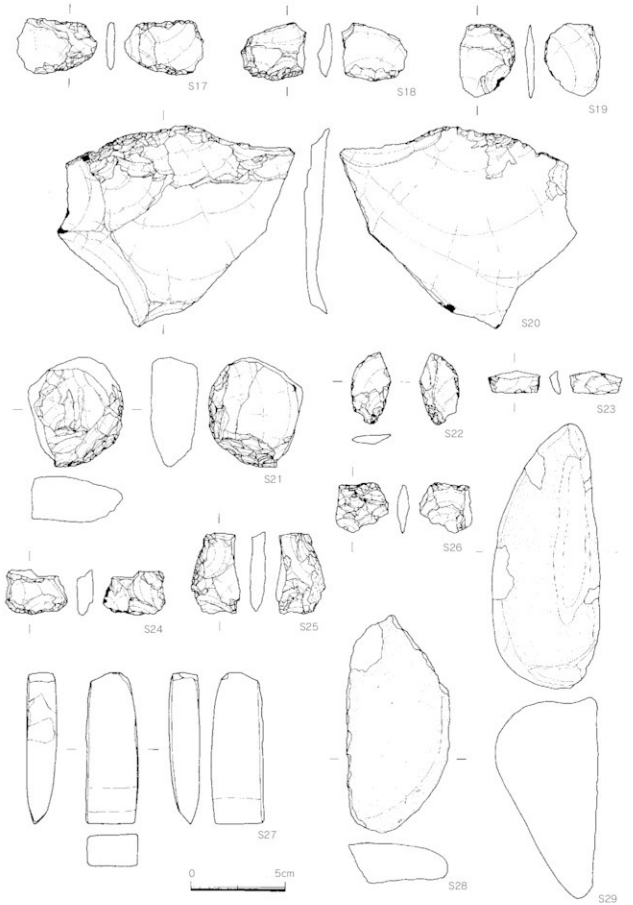
第 6 図　Ⅶ区南壁土層断面図④



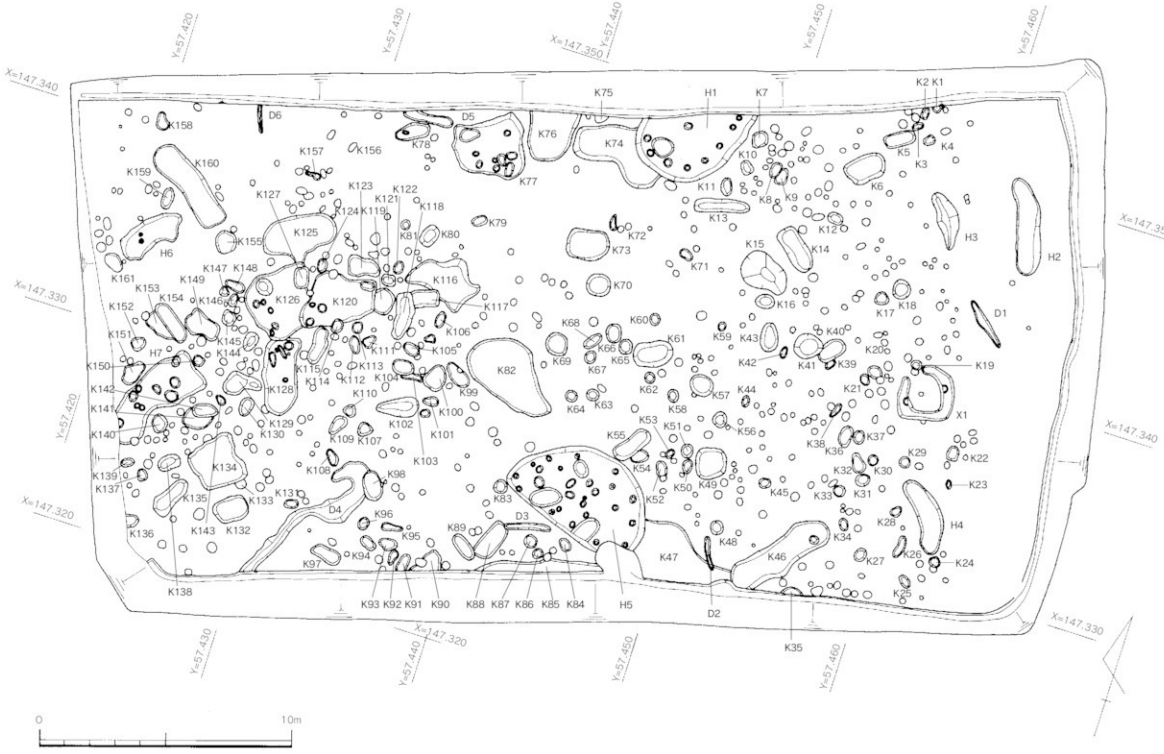
第７図　包含層出土遺物実測図①



第８図　包含層出土遺物実測図②



第９図　包含層出土遺物実測図③



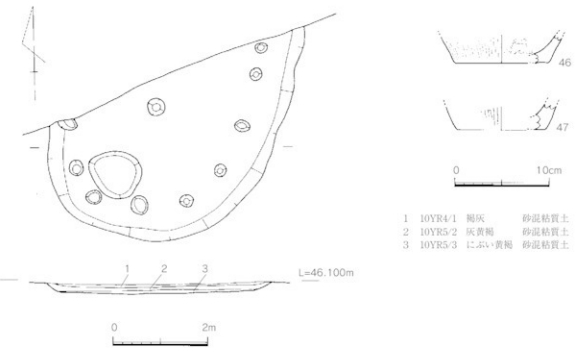
※　遺構番号表記を省略
（例）SK71001 → K1

第 10 図　Ⅶ区遺構平面図（S=1/150）

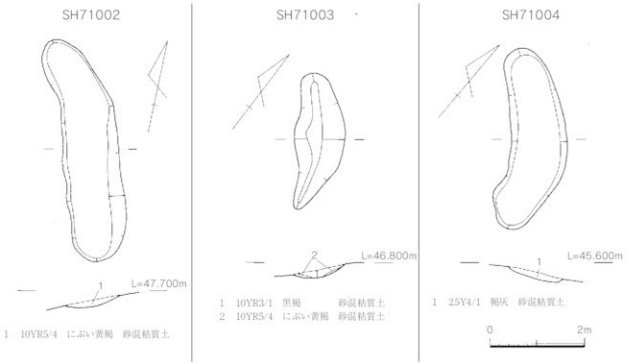
第３節　遺構

SH71001（第 11 図）

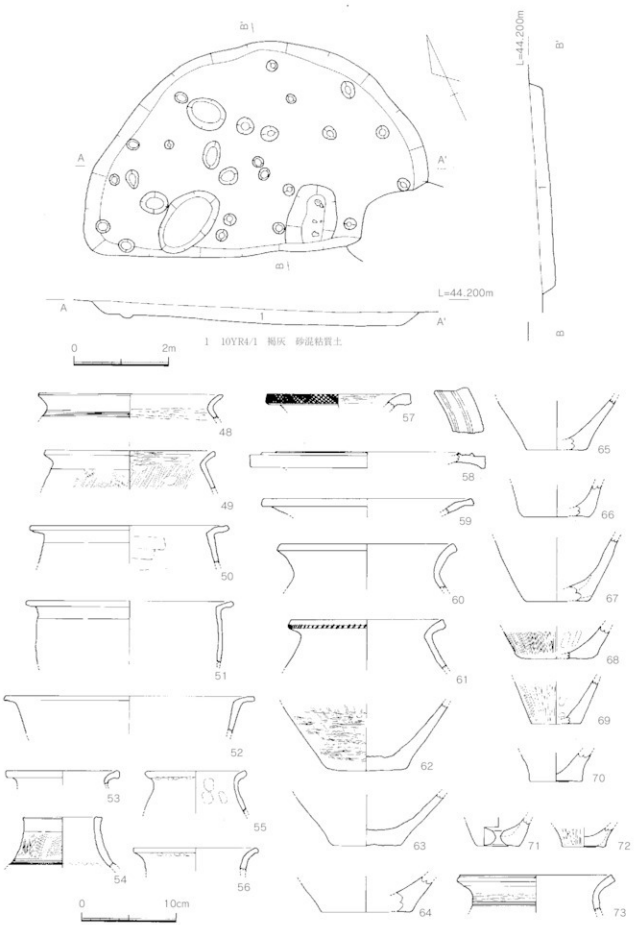
調査区の北部中央で検出した竪穴住居跡である。北半が調査区外に延びるが楕円形の平面を呈すると考えられ，長径 5.80 m以上，短径 3.00 m以上，深さ 20cm を測る。断面は浅い逆台形を呈し，埋土は３層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土，中層は灰黄褐色砂混粘質土，下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。床面では壁面に沿って柱穴が並ぶとともに中央付近にも１基の柱穴が見られる。また，床面の南側には土坑状の掘り込みも認められる。



第 11 図　SH71001 平・断面図および出土遺物実測図（S=1/80）



第 12 図　SH71002 ～ 71004 平・断面図（S=1/80）



第 13 図　SH71005 平・断面図および出土遺物実測図

出土遺物は 46・47 の弥生土器の底部である。46 は外面タテヘラミガキ，内面ヨコハケのち指頭圧である。47 は外面タテヘラミガキ，内面摩滅である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SH71002（第 12 図）

調査区の北東部で検出した遺構である。平面は溝状を呈し，長辺 4.80 m，短辺 1.28 m，深さ 16cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。遺構面の傾斜に沿って遺構が所在していることから遺構面の削平が考えられ，大型の遺構であることから竪穴住居跡の一部の可能性が考えられる。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

第 14 図　SH71005 出土遺物実測図

SH71003（第 12 図）

調査区の東部中央で検出した遺構である。平面は溝状を呈し，長辺 2.90 m，短辺 1.80 m，深さ 16cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は 2 層に分層できる。上層は黒褐色砂混粘質土，下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。傾斜に沿って遺構が所在していることから遺構面の削平が想定される。大型の遺構であるので竪穴住居跡の一部の可能性が考えられる。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SH71004（第 12 図）

調査区の南東部で検出した遺構である。平面は溝状を呈し，長辺 4.80 m，短辺 1.28 m，深さ 16cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。傾斜に沿って遺構が所在していることから遺構面の削平が想定される。大型の遺構であるので竪穴住居跡の一部の可能性が考えられる。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SH71005（第 13・14 図）

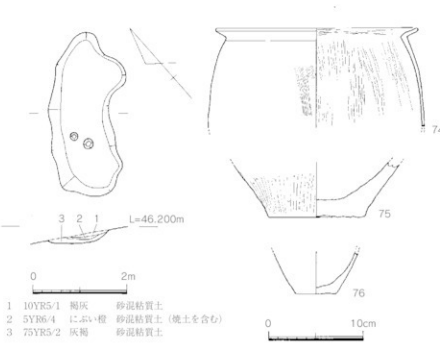
調査区の南部中央で検出した竪穴住居跡である。平面は半円形を呈し，長径 7.36 m，短径 4.36 m，深さ 38cm を測る。断面は浅い逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。床面全域に柱穴が見られるが，壁面に沿って 12 基の柱穴が並ぶ。また，土坑状の掘り込みも 3 基見られ，北側の 2 基は掘り込みが浅いものであるが，南側のものは長径 1.30 m，短径 1.00m，深さ 25cm を測る。

出土遺物は第 13・14 図に掲載した。土器はいずれも弥生土器である。48 ～ 53 は甕である。48 は外面ナデ，内面ヨコヘラミガキで，外面に櫛描直線文が施されている。49 は外面タテハケ，内面タテのちヨコヘラミガキのち指頭圧である。50 は外面ナデ，内面板ナデである。54 は無頸壺である。外面タテハケ，内面指頭圧で，外面に櫛描直線文が施されている。55 ～ 61 は広口壺である。57 は口縁部外面に斜格子文を施している。58 は内面に 2 重の貼り付け突帯を施している。61 は口縁部外面に刻目を施している。62 ～ 72 は底部である。71 は底面に焼成前の穿孔が見られる。73 は南側土坑出土の甕である。外面ヨコヘラミガキ，内面ナデで，口縁部外面に沈線 1 条と頸部に櫛描直線文が施されている。S30 はサヌカイト製で石庖丁転用の打製石剣である。S31 は石錐未製品の可能性のあるサヌカイトの剥片である。S32 はサヌカイト製の石錐の頭部である。S33 ～ 35 はサヌカイト製の削器である。S36 はサヌカイトの剥片である。S37 は砂岩製の凹石である。S38・S39 は砂岩製の磨石である。S40 は安山岩製の扁平片刃石斧の未製品である。刃部に擦痕が見られる。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SH71006（第 15 図）

調査区の北西部で検出した遺構である。平面は溝状を呈し，長辺 3.44 m，短辺 1.28 m，深さ 22cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は 3 層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土，中層は焼土を含むにぶい橙色砂混粘質土，下層は灰褐色砂混粘質土である。遺構面の傾斜に沿って遺構が所在していることから遺構面の削平が考えられ，大型の遺構であることから竪穴住居跡の一部の可能性が考えられる。床面ではピットを 2 基検出している。

出土遺物は 74 ～ 76 の弥生土器である。74 は甕で，外面タテハケ，内面ヘラミガキである。75・76 は底部である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

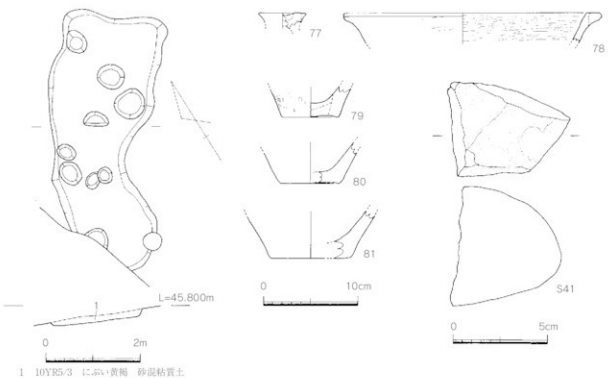


第 15 図　SH71006 平・断面図および出土遺物実測図

SH71007（第 16 図）

調査区の西部中央で検出した遺構である。平面は溝状を呈し，長辺 5.64 m，短辺 1.90 m，深さ 16cm を測る。断面は浅い逆台形であり，埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。遺構面の傾斜に沿って遺構が所在していることから遺構面の削平が考えられ，大型の遺構であることから竪穴住居跡の一部の可能性が考えられる。床面ではピットを 9 基検出している。

出土遺物の 77 ～ 81 は弥生土器である。77 は蓋のつまみ部である。78 は鉢で，外面板ナデ，内面ヨコヘラミガキである。79 ～ 81 は底部である。S41 は砂岩製の磨石である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第 16 図　SH71007 平・断面図および出土遺物実測図

SK71001（第 17 図）

調査区の北東部で検出した土坑である。北半が調査区外に延びるが，平面は楕円形を呈すると考えられ，長径 50cm 以上，短径 34cm，深さ 13cm を測る。断面はU字を呈する。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71002（第 17 図）

調査区の北東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 65cm，短径 38cm，深さ 17cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71003（第 17 図）

調査区の北東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 56cm，短径 32cm，深さ 12cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71004（第 17 図）

調査区の北東部で検出した土坑である。平面はやや不整形な楕円形を呈し，長径 62cm，短径 46cm，深さ 6cm を測る。断面はレンズ状を呈する。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71005（第 17 図）
調査区の北東部で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し，長辺 1.58 m，短辺 74cm，深さ 11cm を測る。断面は浅い逆台形を呈し，埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71006（第 17 図）
調査区の北東部で検出した土坑である。平面は不整形で，長辺 2.08 m，短辺 1.26 m，深さ 12cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71007（第 17 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面はやや不整形な隅丸方形を呈し，長辺 95cm，短辺 75cm，深さ 18cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は 2 層に分層できる。上層は黒褐色砂混粘質土，下層はにぶい黄色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71008（第 17 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 84cm，短径 54cm，深さ 10cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71009（第 17 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。SK71008 に切られているが，平面は隅丸長方形を呈し，長辺 88cm，短辺 64cm，深さ 18cm を測る。断面南側に向かって 2 段落ちになっており，埋土は黄灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

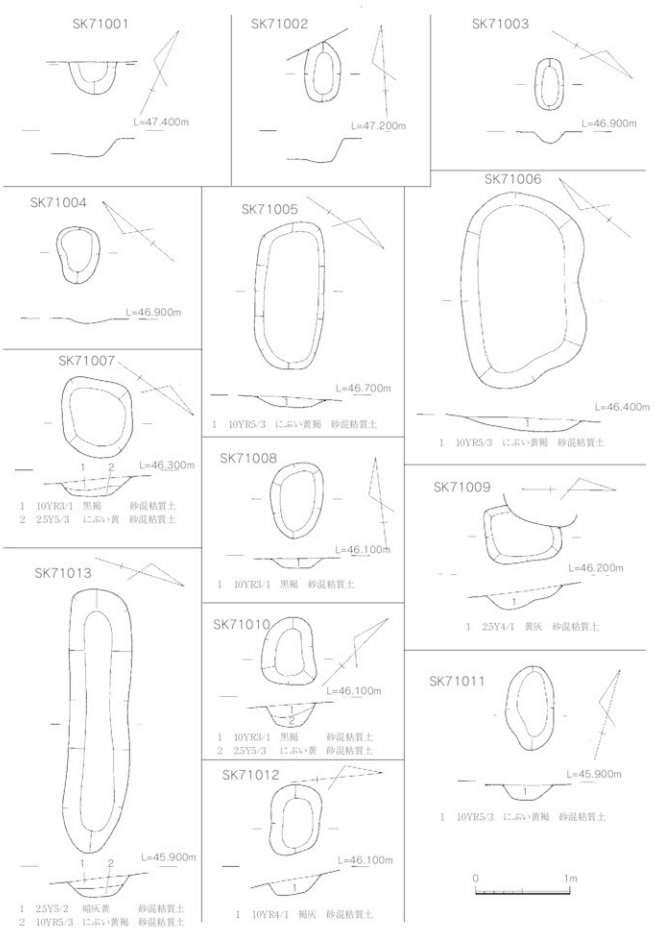
SK71010（第 17 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面はやや不整形な楕円形を呈し，長径 74cm，短径 54cm，深さ 25cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は 2 層に分層できる。上層は黒褐色砂混粘質土，下層はにぶい黄色砂混粘質土である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71011（第 17 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 92cm，短径 56cm，深さ 16cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71012（第 17 図）
調査区の北東部で検出した土坑である。平面はやや不整形な隅丸長方形を呈し，長辺 78cm，短辺 52cm，深さ 16cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71013（第 17 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し，長辺 2.82 m，短辺 63cm，深さ 20cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は 2 層に分層できる。上層は暗灰黄色砂混粘質土，下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71014（第 18 図）
調査区の北東部で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し，長辺 2.42 m，短辺 1.05 m，深さ 18cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は 2 層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土，下層は灰黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第 17 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図①

SK71015（第 18・32 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は不整形で，長辺 2.49 m，短辺 1.38 m，深さ 42cm を測る。断面は浅いＶ字を呈し，埋土は４層に分層できる。第１層は黒褐色砂混粘質土，第２層は黄灰色砂混粘質土，第３層は褐灰色砂混粘質土，第４層はにぶい黄色砂混粘質土である。
出土遺物のうち図示できたものは第 32 図 82 の弥生土器の底部のみである。外面タテヘラミガキ，内面板ナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71016（第 18 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 94cm，短径 66cm，深さ 22cm を測る。断面はＵ字を呈し，埋土は２層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土，下層は灰黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71017（第 18 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は隅丸三角形を呈し，長辺 70cm，短径 56cm，深さ 12cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71018（第 18 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は円形を呈し，長径 98cm，短径 88cm，深さ 15cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71019（第 18 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は円形を呈し，長径 54cm，短径 48cm，深さ 12cm を測る。断面はＵ字を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71020（第 18 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 75cm，短径 60cm，深さ 8cm を測る。断面はレンズ状を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

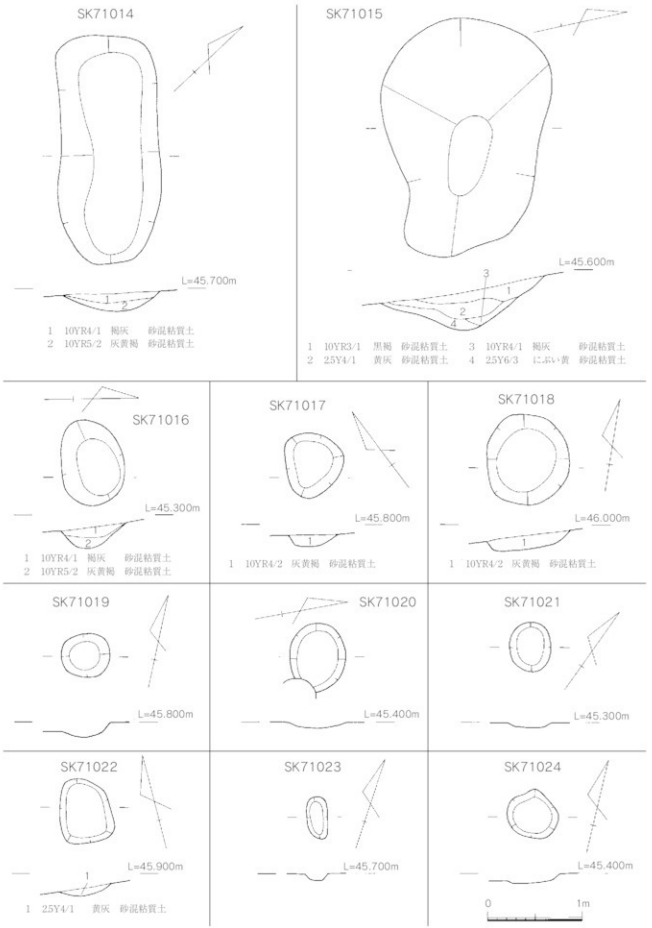
SK71021（第 18 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 56cm，短径 45cm，深さ 6cm を測る。断面はレンズ状を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71022（第 18 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し，長辺 74cm，短辺 54cm，深さ 8cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は黄灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71023（第 18 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 47cm，短径 24cm，深さ 8cm を測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71024（第 18 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は円形を呈し，直径 56cm，深さ 6cm を測る。断面は浅い逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71025（第 19 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 47cm，短径 24cm，深さ 8cm を測る。



第 18 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図②

断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71026（第 19 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は溝状を呈し，長辺 1.18 m，短辺 36cm，深さ 10cm を測る。断面は浅いU字を呈し，埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71027（第 19 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 70cm，短径 53cm，深さ 12cm を測る。断面は浅いU字を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71028（第 19・32 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 65cm，短径 45cm，深さ 10cm を測る。断面はレンズ状を呈する。
出土遺物のうち図示できたものは第 32 図 83 の弥生土器の底部のみである。外面は摩滅により調整不明であるが，内面は指頭ナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71029（第 19 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は円形を呈し，長径 56cm，短径 52cm，深さ 14cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71030（第 19 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 56cm，短径 50cm，深さ 6cm を測る。断面は浅い逆台形である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71031（第 19 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 70cm，短径 60cm，深さ 16cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は 2 層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土，下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71032（第 19 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は滴水形を呈し，長辺 1.05 m，短辺 45cm，深さ 22cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71033（第 19 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は円形を呈し，長径 58cm，短径 56cm，深さ 10cm を測る。断面は浅い逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71034（第 19 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 62cm，短径 42cm，深さ 8cm を測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71035（第 19 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるため平面は不明であるが，長辺 1.20 m 以上，短辺 38cm 以上，深さ 10cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71036（第 19 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.04 m，短径 64cm，深さ 14cm を測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71037（第 19 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 68cm，短径 54cm，深さ 12cm を測る。断面は逆台形を呈する。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71038（第 19 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し，長辺 84cm，短辺 30cm，深さ 10cm を測る。断面はU字を呈する。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71039（第 19 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。SK71040 に切られているが，平面は楕円形を呈し，長径 56cm，短径 34cm，深さ 12cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71040（第 19 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。SK71041 に切られているが，平面は楕円形を呈し，長径 1.48 m，短径 88cm，深さ 23cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は 3 層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土，中層は灰黄褐色砂混粘質土，下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71041（第 20 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.35 m，短径 1.22 m，深さ 28cm を測る。断面はU字を呈し，埋土は 3 層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土，中層は灰黄褐色砂混粘質土，下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

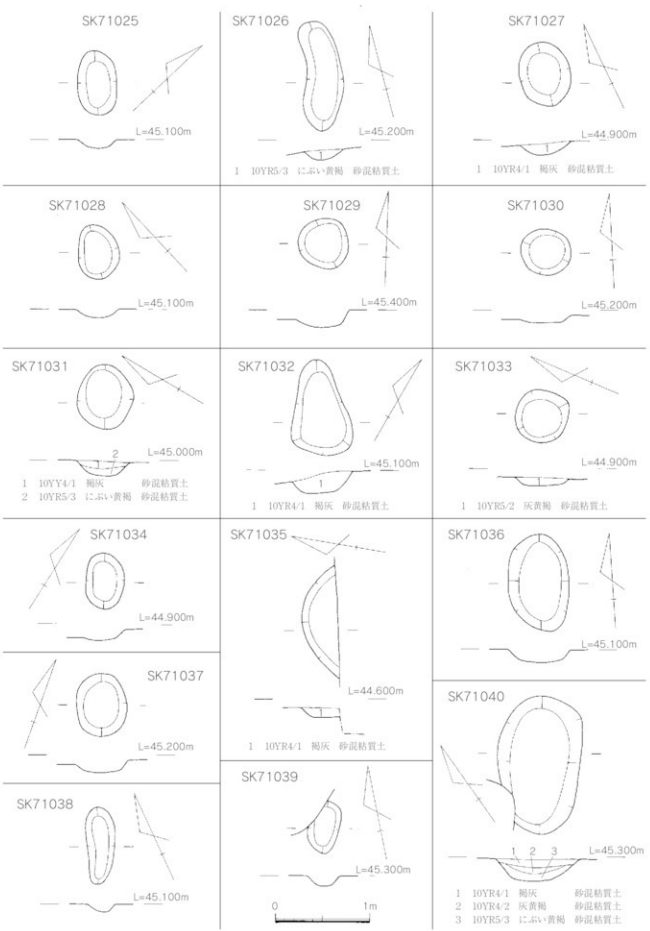
SK71042（第 20 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 62cm，短径 27cm，深さ 8cm を測る。断面は浅いU字を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71043（第 20 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.42 m，短径 77cm，深さ 24cm を測る。断面はU字を呈し，埋土は 2 層に分層できる。上層は灰黄褐色砂混粘質土，下層は灰黄色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

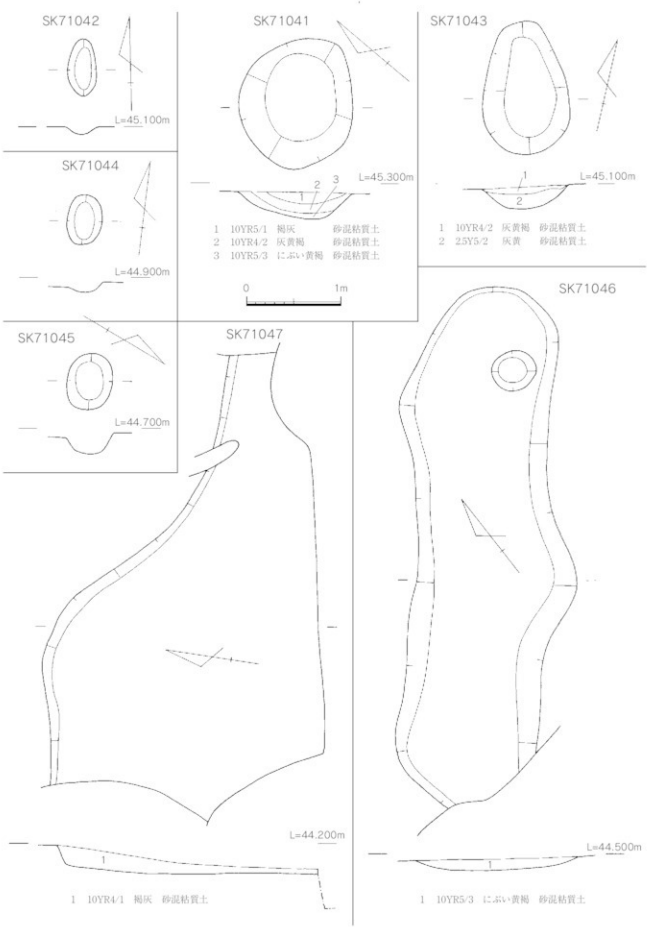
SK71044（第 20 図）
調査区の東部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 55cm，短径 38cm，深さ 10cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71045（第 20 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 62cm，短径 49cm，深さ 21cm を測る。断面はU字を呈する。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71046（第 20・32 図）
調査区の南東部で検出した土坑である。南端が調査区外に延びるが，平面は溝状を呈し，長辺 5.46 m，短辺 1.43 m，深さ 12cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。
出土遺物のうち図示できたものは第 32 図に掲載した。84 は弥生土器の甕である。外面タテハケ，内面ナ



第 19 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図③



第 20 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図④

デである。85は弥生土器の底部である。内外面とも摩滅が著しい。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71047（第20図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるとともに，SH71005およびSK71046に切られており平面は不明であるが，長辺4.98m以上，短辺1.30m以上，深さ21cmを測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71048（第21図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径75cm，短径64cm，深さ21cmを測る。断面はU字を呈し，埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71049（第21図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は隅丸方形を呈し，長辺1.79m，短辺1.55m，深さ24cmを測る。断面は逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土，下層は灰黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71050（第21図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径74cm，短径50cm，深さ13cmを測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71051（第21図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は円形を呈し，長径70cm，短径63cm，深さ17cmを測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71052（第21図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径78cm，短径54cm，深さ14cmを測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71053（第21図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径54cm，短径34cm，深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71054（第21図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。SK71055に切られているが，平面は楕円形を呈すると考えられ，長径92cm以上，短径64cm，深さ2cmを測る。断面は薄い堆積である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71055（第21図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し，長辺2.11m，短辺84cm，深さ17cmを測る。断面はU字を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71056（第21図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は円形を呈し，長径78cm，短径70cm，深さ14cmを測る。断面は逆台形を呈する。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71057（第21・32図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径1.21m，短径1.00m，深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。
出土遺物のうち図示できたものは第32図86の弥生土器の底部のみである。外面タテヘラミガキ，内面ナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71058（第21図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径63cm，短径54cm，深さ19cmを測る。断面はU字を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71059（第21図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径46cm，短径35cm，深さ11cmを測る。断面はU字を呈する。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71060（第21図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は円形を呈し，長径54cm，短径50cm，深さ10cmを測る。断面はレンズ状を呈する。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71061（第21図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径1.98m，短径1.22m，深さ27cmを測る。断面はU字を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土，下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

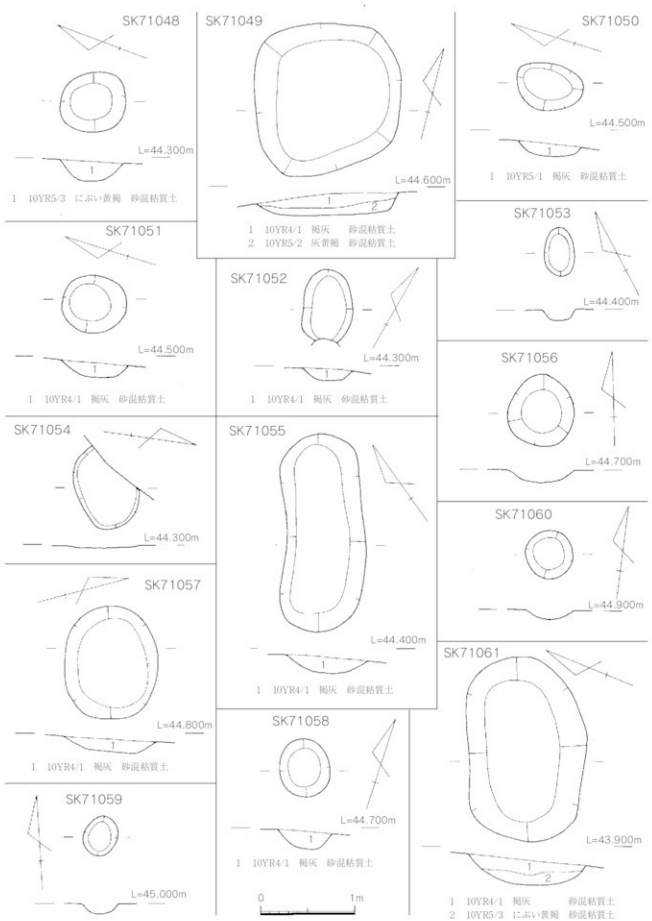
SK71062（第22図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径56cm，短径48cm，深さ38cmを測る。断面はU字を呈する。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71063（第22図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は円形を呈し，長径62cm，短径58cm，深さ19cmを測る。断面はU字を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71064（第22図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径62cm，短径53cm，深さ16cmを測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71065（第22図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径74cm，短径70cm，深さ13cmを測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71066（第22図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径96cm，短径72cm，深さ12cmを測る。



第 21 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑤

断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71067（第 22 図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 64cm，短径 53cm，深さ 16cm を測る。断面はU字を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71068（第 22 図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.04 m，短径 48cm，深さ 9cm を測る。断面はU字を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71069（第 22 図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.22 m，短径 1.08 m，深さ 9cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71070（第 22 図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は円形を呈し，長径 1.22 m，短径 1.12 m，深さ 12cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

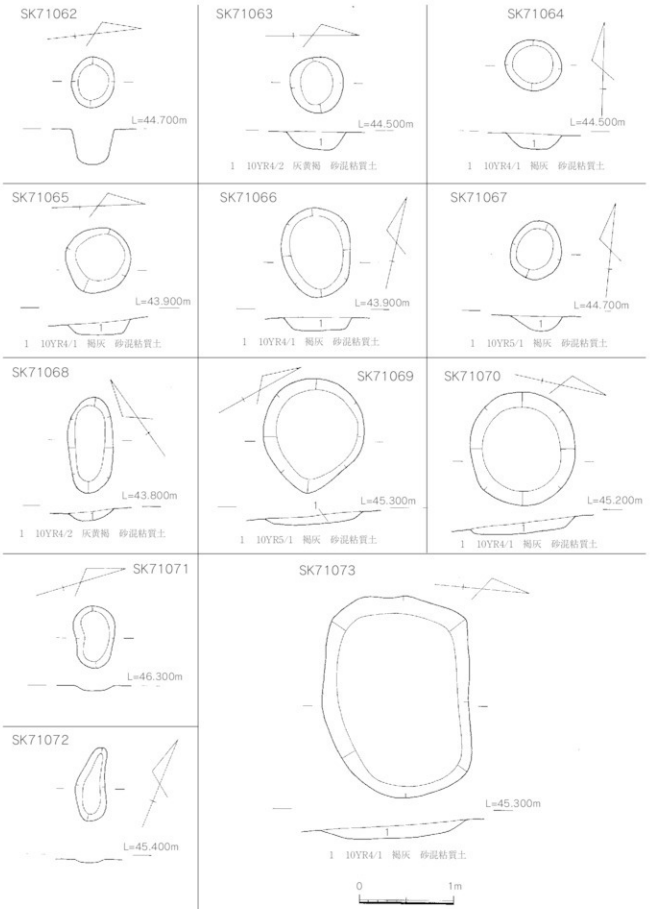
SK71071（第 22 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 68cm，短径 40cm，深さ 8cm を測る。断面は薄い堆積である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71072（第 22 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し，長辺 82cm，短辺 20cm，深さ 4cm を測る。断面は薄い堆積である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71073（第 22・32 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面はやや不整形な隅丸長方形を呈し，長辺 2.18 m，短辺 1.54 m，深さ 13cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。
出土遺物のうち図示できたものは第 32 図に掲載した。87 は弥生土器の甕である。内面は摩滅が著しいが，外面タテハケである。88 は弥生土器の甕である。外面タテハケ，内面ヨコヘラミガキである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71074（第 23 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。東半が SH71001 に切られており，平面は不明であるが，長辺 4.53 m以上，短辺 1.82 m以上，深さ 14cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71075（第 23 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。北半が調査区外に延びるため平面は不明であるが，長辺 71cm 以上，短辺 34cm 以上，深さ 3cm を測る。断面は薄い堆積である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第 22 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑥

SK71076（第 23 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。北半が調査区外に延びるため平面は不明であるが，長辺 2.55 m 以上，短辺 2.12 m 以上，深さ 12cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71077（第 23・32 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面はやや不整形な方形を呈し，長辺 4.02 m，短辺 2.42 m，深さ 18cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。底面にピットが 9 基認められるが，遺構に伴うものかどうかは不明である。
出土遺物のうち図示できたものは第 32 図に掲載した。いずれも弥生土器である。89 はバケツ型の鉢である。外面タテヘラミガキ，内面は摩滅である。90 ～ 93 は底部である。90・93 は摩滅が著しいが，91 は外面指頭ナデ，内面板ナデ，92 は外面タテヘラミガキ，内面ヨコヘラミガキのちタテヘラミガキである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71078（第 23 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し，長辺 1.83 m，短辺 74cm，深さ 8cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。底面でピット 1 基を検出している。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71079（第 23 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 76cm，短径 48cm，深さ 8cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黄灰色粗砂の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

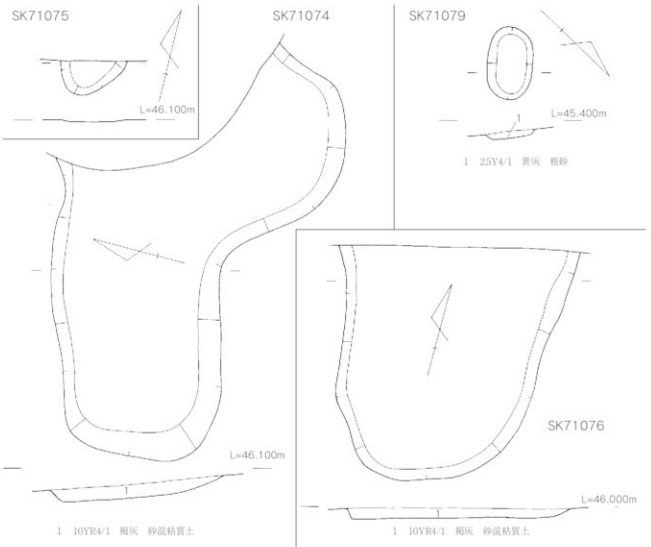
SK71080（第 24 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し，長辺 1.20 m，短辺 74cm，深さ 22cm を測る。断面はＵ字を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

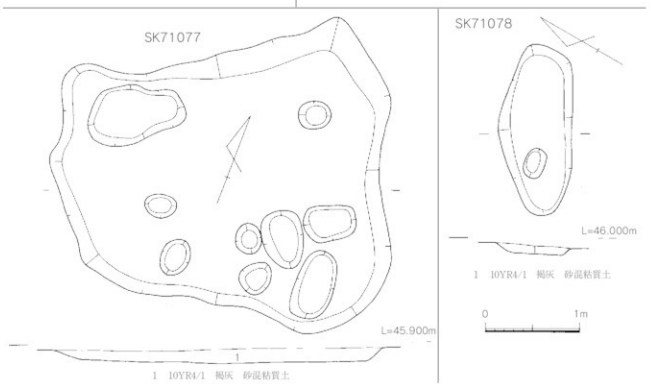
SK71081（第 24 図）
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 52cm，短径 45cm，深さ 11cm を測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71082（第 24 図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は不整形で，長辺 5.00 m，短辺 2.86 m，深さ 9cm を測る。断面は薄い堆積であり，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

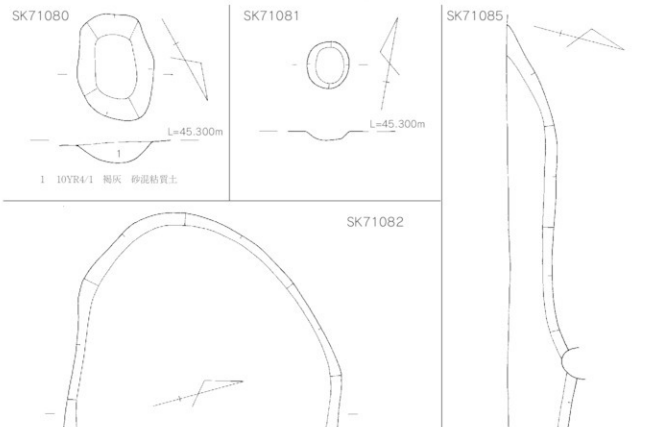
SK71083（第 24 図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 71cm，短径 64cm，深さ 20cm を測る。断面はＵ字を呈し，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71084（第 24 図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 69cm，短径 48cm，深さ 30cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。





第 23 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑦



第 24 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑧

SK71085（第 24・33 図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるため平面は不明であるが，長辺 6.46 m 以上，短辺 45cm 以上，深さ 24cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。
出土遺物のうち図示できたものは第 33 図 S42 のサヌカイト製の石鏃のみである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71086（第 24 図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 56cm，短径 47cm，深さ 42cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71087（第 25 図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 70cm，短径 60cm，深さ 16cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71088（第 25・32・33 図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。SK71089 および SD71003 に切られているが，平面は隅丸長方形を呈し，長辺 2.08 m，短辺 96cm，深さ 14cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。
出土遺物のうち図示できたものは第 32・33 図に掲載した。94 は弥生土器の底部で，内外面とも摩滅が著しい。S43 はサヌカイト製の削器である。両側縁部に切断面を残し，背部と刃部に調整を施している。S44 はサヌカイト製の凹基式の石鏃である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71089（第 25・32 図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.44 m，短径 68cm，深さ 14cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。
出土遺物のうち図示できたものは第 32 図 95 の弥生土器の甕のみである。如意状の口縁をもち，体部はあまり張らない。外面は摩滅が著しく調整不明であるが，櫛描直線文を巡らせている。内面はナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71090（第 25 図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるため平面は不明であるが，長辺 1.80 m 以上，短辺 65cm 以上，深さ 14cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71091（第 25 図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。南端が調査区外に延びるが，平面は隅丸長方形を呈し，長辺 1.02 m以上，短辺 48cm，深さ 8cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71092（第 25 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面は滴水形を呈し，長辺 80cm，短辺 40cm，深さ 8cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71093（第 25 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面はやや不整形な楕円形を呈し，長径 92cm，短径 58cm，深さ 9cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黄灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71094（第 25 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 86cm，短径 53cm，深さ 14cm を測る。断面はU字を呈し，埋土は黄灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71095（第 25 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面は溝状を呈し，長辺 1.08 m，短辺 26cm，深さ 7cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黄灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71096（第 25 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 62cm，短径 49cm，深さ 12cm を測る。断面はU字を呈し，埋土は炭を多く含む黄灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71097（第 25 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面はやや不整形な隅丸長方形を呈し，長辺 1.55 m，短辺 62cm，深さ 20cm を測る。断面はU字を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71098（第 25 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.47 m，短径 96cm，深さ 16cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

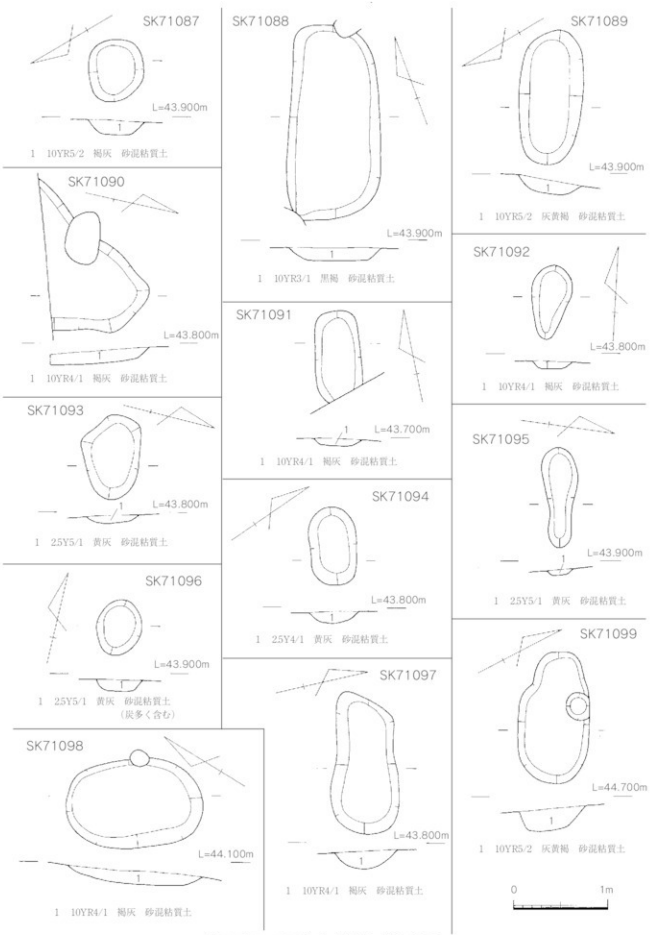
SK71099（第 25 図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.40 m，短径 76cm，深さ 24cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。底面でピット 1 基を検出している。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71100（第 26 図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面はやや不整形な隅丸方形を呈し，長辺 1.34 m，短辺 1.06 m，深さ 14cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71101（第 26 図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は滴水形を呈し，長辺 80cm，短辺 42cm，深さ 18cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71102（第 26 図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は滴水形を呈し，長辺 2.06 m，短辺 86cm，深さ 36cm を測る。断面はU字を呈し，埋土は 3 層に分層できる。上層は黒褐色砂混粘質土，中層は褐灰色砂混粘質土，下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71103（第 26 図）
調査区の中央で検出した土坑である。SK71104 に切られているが，平面は溝状を呈し，長辺 1.10 m，短辺



第 25 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑨

32cm, 深さ 12cm を測る。断面はU字を呈し, 埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず, 遺構の詳細な時期は不明である。

SK71104（第 26 図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し, 長径 1.07 m, 短径 76cm, 深さ 18cm を測る。断面はU字を呈し, 埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず, 遺構の詳細な時期は不明である。

SK71105（第 26 図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し, 長径 88cm, 短径 58cm, 深さ 18cm を測る。断面は逆台形を呈し, 埋土は 2 層に分層できる。上層・下層とも灰黄褐色砂混粘質土である。遺物は出土しておらず, 遺構の詳細な時期は不明である。

SK71106（第 26 図）
調査区の中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し, 長径 85cm, 短径 46cm, 深さ 8cm を測る。断面はレンズ状を呈し, 埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず, 遺構の詳細な時期は不明である。

SK71107（第 26 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面は隅丸三角形を呈し, 長辺 75cm, 短径 62cm, 深さ 11cm を測る。断面は逆台形を呈し, 埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず, 遺構の詳細な時期は不明である。

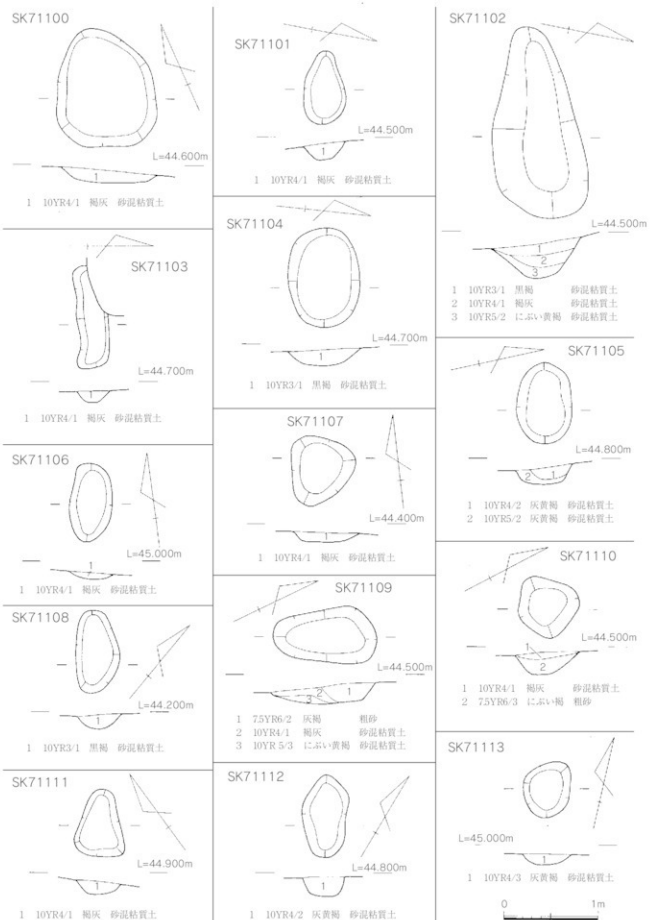
SK71108（第 26 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し, 長径 90cm, 短径 43cm, 深さ 16cm を測る。断面はU字を呈し, 埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており, 弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71109（第 26・32 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し, 長径 1.10 m, 短径 54cm, 深さ 20cm を測る。断面は逆台形を呈し, 埋土は 3 層に分層できる。上層は灰褐色粗砂, 中層は褐灰色砂混粘質土, 下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。
出土遺物のうち図示できたものは第 32 図 96 の弥生土器の底部のみである。底面には焼成前の穿孔が見られ, 内外面ともタテヘラミガキである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71110（第 26 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面はやや不整形な楕円形を呈し, 長径 70cm, 短径 58cm, 深さ 24cm を測る。断面は逆台形を呈し, 埋土は 2 層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土, 下層はにぶい褐色粗砂である。弥生土器の小片が出土しており, 弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71111（第 26 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は隅丸三角形を呈し, 長辺 72cm, 短径 43cm, 深さ 14cm を測る。断面は逆台形を呈し, 埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず, 遺構の詳細な時期は不明である。

SK71112（第 26 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し, 長径 90cm, 短径 43cm, 深さ 16cm を測る。断面はU字を呈し, 埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず, 遺構の詳細な時期は不明である。



第 26 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑩

SK71113（第 26 図）

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 64cm，短径 50cm，深さ 12cm を測る。断面はＵ字を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71114（第 27・32 図）

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 68cm，短径 54cm，深さ 17cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第 32 図に掲載した。いずれも弥生土器である。97 は細頸壺の口縁部である。外面ナデ，内面指頭ナデで，外面には 11 本 1 束の櫛描直線文を 2 条巡らせている。98・99 は甕である。口縁部はくの字に屈曲し，体部は張っている。外面タテハケ，内面タテハケのち指頭圧である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71115（第 27 図）

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し，長辺 1.82 m，短辺 68cm，深さ 12cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71116（第 27 図）

調査区の中央で検出した土坑である。平面は不整形で，長辺 3.84 m，短辺 1.38 m，深さ 12cm を測る。斜面部であるため南半は削平されている可能性があり，断面はＬ字を呈する。埋土は 4 層に分層でき，第 1 層は褐灰色砂混粘質土，第 2 層は黒褐色砂混粘質土，第 3 層は灰黄褐色砂混粘質土，第 4 層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71117（第 27・32・33 図）

調査区の中央で検出した土坑である。SK71118 に切られているが，平面は長方形を呈すると考えられ，長辺 1.35 m以上，短辺 80cm，深さ 22cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は遺構の西端で集中的に出土した。

出土遺物のうち図示できたものは第 32・33 図に掲載した。100 は弥生土器の底部である。外面指頭圧のちタテヘラミガキ，内面指頭圧である。S45 はサヌカイト製の石庖丁である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71118（第 27 図）

調査区の中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し，長辺 2.40 m，短辺 82cm，深さ 27cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71119（第 27 図）

調査区の西部中央で検出した土坑である。SK71120 に切られているが，平面は楕円形を呈すると考えられ，長径 1.31 m，短径 98cm 以上，深さ 12cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71120（第 28・32 図）

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は不整形で，長辺 3.22 m，短辺 2.08 m，深さ 14cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。底面でピットを 4 基検出しているが，遺構に伴うものかどうかは不明である。

出土遺物のうち図示できたものは第 32 図 101 の弥生土器の底部のみである。外面タテヘラミガキ，内面ヨコヘラミガキである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71121（第 27・32 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し，長辺 72cm，短辺 55cm，深さ 30cm を測る。断面はU字を呈し，埋土は 2 層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土，下層はにぶい黄橙色粗砂である。
出土遺物のうち図示できたものは第 32 図 102 の弥生土器の底部のみである。外面は摩滅が著しく調整不明であるが，底面にヘラミガキが施されている。内面はタテヘラミガキである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71122（第 27 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 66cm，短径 48cm，深さ 8cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

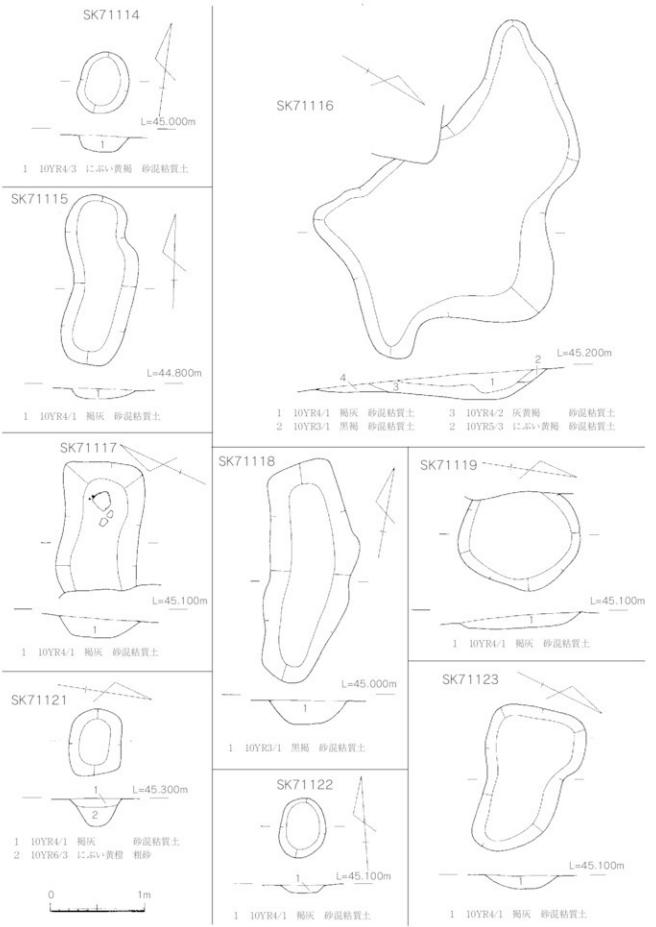
SK71123（第 27・33 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は不整形で，長辺 1.68 m，短辺 80cm，深さ 14cm を測る。断面はU字を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。
出土遺物のうち図示できたものは第 33 図 S46 のサヌカイト製の削器のみである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71124（第 28 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 66cm，短径 48cm，深さ 2cm を測る。断面は薄い堆積である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

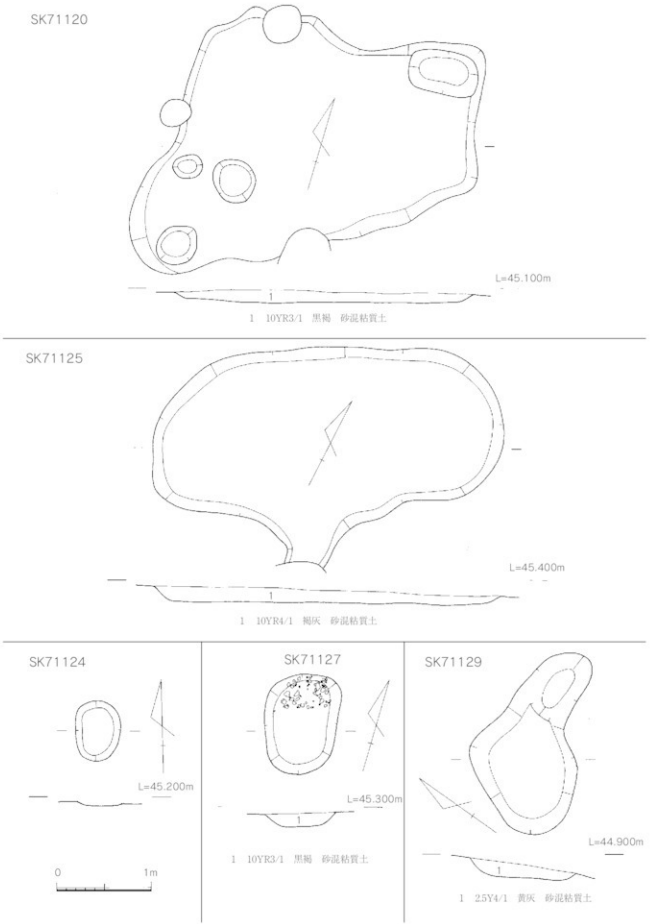
SK71125（第 28・32 図）
調査区の北西部で検出した土坑である。SK71126 に切られているが，平面は楕円形に一部突出部が付く不整形で，長辺 3.75 m，短辺 1.68 m，深さ 15cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。
出土遺物のうち図示できたものは第 32 図 103 の弥生土器の底部のみである。内外面ともナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71126（第 29・32 図）
調査区の北西部で検出した土坑である。SK71120 および SK71127 に切られており，平面は不明であるが，長辺 4.05 m以上，短辺 2.22 m以上，深さ 14cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。
出土遺物のうち図示できたものは第 32 図に掲載した。いずれも弥生土器である。104 は細頸壺である。外面タテハケ，内面ヨコヘラミガキである。口縁端部に刻目を施している。105 は広口壺である。内外面ともにナデである。106 は甕である。外面ナデ，内面縦方向の板ナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71127（第 28・32・33 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し，長辺 1.10 m，短辺 74cm，深さ 15cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は遺構の北半において密集して出土した。
出土遺物のうち図示できたものは第 32・33 図に掲載した。107 は弥生土器の底部である。外面タテヘラミガキのち指頭圧，内面指頭圧である。108 は弥生土器の底部である。外面板ナデ，内面ナデである。109 は弥生土器の広口壺である。内外面とも摩滅が著しく調整不明である。110 は弥生土器の甕である。外面タテハケ，内面ナデである。111 は弥生土器の甕である。外面タテヘラミガキ，内面ヨコヘラミガキのち指頭圧である。S47 はサヌカイトの剥片である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第 27 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑪



第 28 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑫

SK71128（第 29・32 図）

調査区の西部中央で検出した土坑である。SK71126 に切られているが，平面は溝状を呈し，長辺 3.81 m 以上，短辺 1.65 m，深さ 12cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黄灰色砂混粘質土の単層である。底面でピットを 6 基検出しているが，遺構に伴う物かどうかは不明である。

出土遺物のうち図示できたものは第 32 図に掲載した。112・113 は弥生土器の甕である。いずれも口縁部はくの字である。112 の外面は口縁部が指頭圧，体部がタテハケである。内面は口縁部がヨコハケ，体部はタテハケのちヨコヘラミガキである。113 は外面タテハケ，内面ヨコヘラミガキである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71129（第 28 図）

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は不整形で，長辺 1.98 m，短辺 66cm，深さ 16cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黄灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71130（第 29 図）

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 98cm，短径 58cm，深さ 15cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71131（第 29 図）

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 70cm，短径 46cm，深さ 11cm を測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71132（第 29・33 図）

調査区の南西部で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し，長辺 1.78 m，短辺 1.21 m，深さ 16cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は遺構の中央において密集して出土した。

出土遺物のうち図示できたものは第 33 図に掲載した。114・115 は弥生土器の甕である。内外面とも摩滅が著しく調整不明である。S48 は安山岩製の柱状片刃石斧の未製品である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

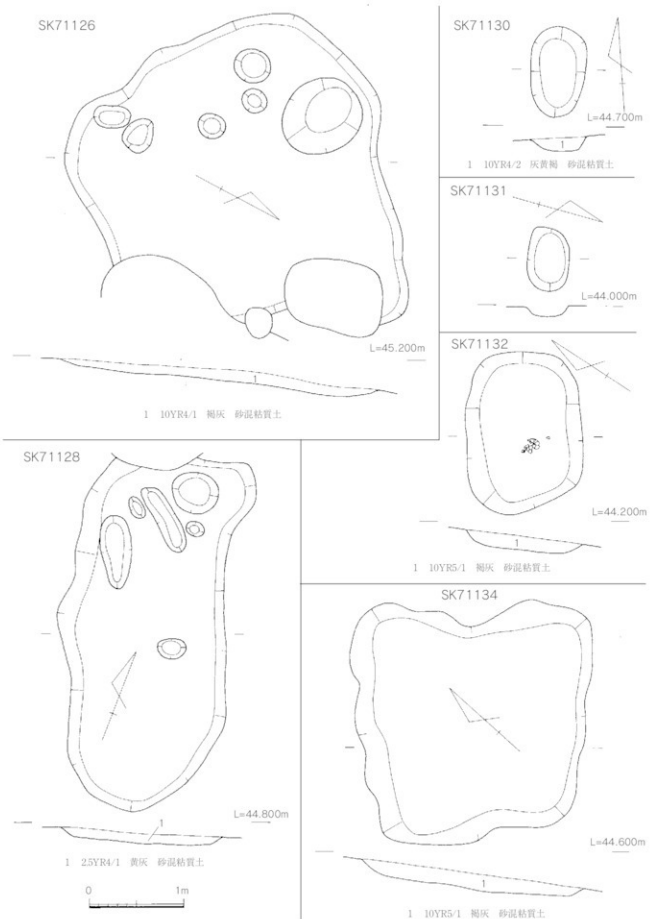
SK71133（第 30 図）

調査区の南西部で検出した土坑である。SK71134 に切られているが，平面は楕円形を呈すると考えられ，長径 50cm 以上，短径 50cm，深さ 12cm を測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71134（第 29・33 図）

調査区の南西部で検出した土坑である。平面はやや不整形な隅丸長方形を呈し，長辺 3.12 m，短辺 2.26 m，深さ 16cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第 33 図に掲載した。116 は弥生土器の甕である。内外面とも摩滅が著しく調整不明である。117 は弥生土器の甕である。外反する口縁部を有し，口縁端部からわずかに下がった位置で貼り付け突帯が巡る。体部上半には斜方向のヘラ描沈線文が施されている。調整は内外面ともヨコヘラケズリで，内面には指頭圧が見られる。いわゆる縄文系甕である。118 は弥生土器の広口壺である。外面タテハケ，内面は頸部がヨコヘラミガキで，体部は指頭ナデである。体部上半に 10 本 1 束の櫛描直線文と波状文が施されている。119 は弥生土器の底部である。外面タテヘラミガキ，内面板ナデのち指頭圧である。120 は底部である。内外面とも摩滅が著しく調整不明である。弥生時代前期前半の縄文系甕（117）が出土しているが，他の出土遺物は弥生時代中期前半のものであり，縄文系甕は混入品と考えられる。このため，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第 29 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑬

SK71135（第 30 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面は溝状を呈し，長辺 2.13 m以上，短辺 80cm，深さ 16cm を測る。断面はU字を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71136（第 30 図）
調査区の南西端で検出した土坑である。西半が調査区外に延びるため平面は不明であるが，長辺 76cm 以上，短辺 64cm，深さ 12cm を測る。断面はU字を呈し，埋土はにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71137（第 30 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 64cm，短径 44cm，深さ 14cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71138（第 30・33 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.22 m，短径 76cm，深さ 28cm を測る。断面はU字を呈し，埋土は 2 層に分層できる。上層は褐灰色砂混粘質土，下層は灰褐色砂混粘質土である。
出土遺物は第 33 図 121 の体部片のみである。内面は摩滅が著しいが，外面はヨコヘラミガキが認められる。外面には横方向のヘラ描沈線が 1 条施され，その上部に斜方向の沈線文が施されている。沈線文は右上りと左上がり両方認められることから，交互に施文されている可能性が高い。小片であるがSK71134 出土の縄文系甕（117）と文様が酷似していることから縄文系甕の体部片と考えられる。弥生時代前期前半の遺物であるが，SK71134 同様混入品の可能性もあるため，遺構の時期は不明である。

SK71139（第 30 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 67cm，短径 40cm，深さ 6cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71140（第 30 図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面はやや不整形な楕円形を呈し，長径 98cm，短径 71cm，深さ 12cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黄灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71141（第 30 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。SK71142 に切られており，平面は不明であるが，長辺 1.70 m以上，短辺 67cm，深さ 15cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は暗灰黄色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71142（第 30 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.31 m，短径 59cm，深さ 14cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71143（第 30 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 60cm，短径 34cm，深さ 8cm を測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71144（第 30 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.02 m，短径 64cm，深さ 34cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71145（第 30 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し，長辺 82cm，短辺 68cm，深さ 16cm を測る。断面はU字を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71146（第 30 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 70cm，短径 42cm，深さ 13cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は炭を多く含む灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71147（第 30 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は隅丸三角形を呈し，長辺 49cm，短辺 42cm，深さ 13cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71148（第 30 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.84 m，短径 88cm，深さ 9cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

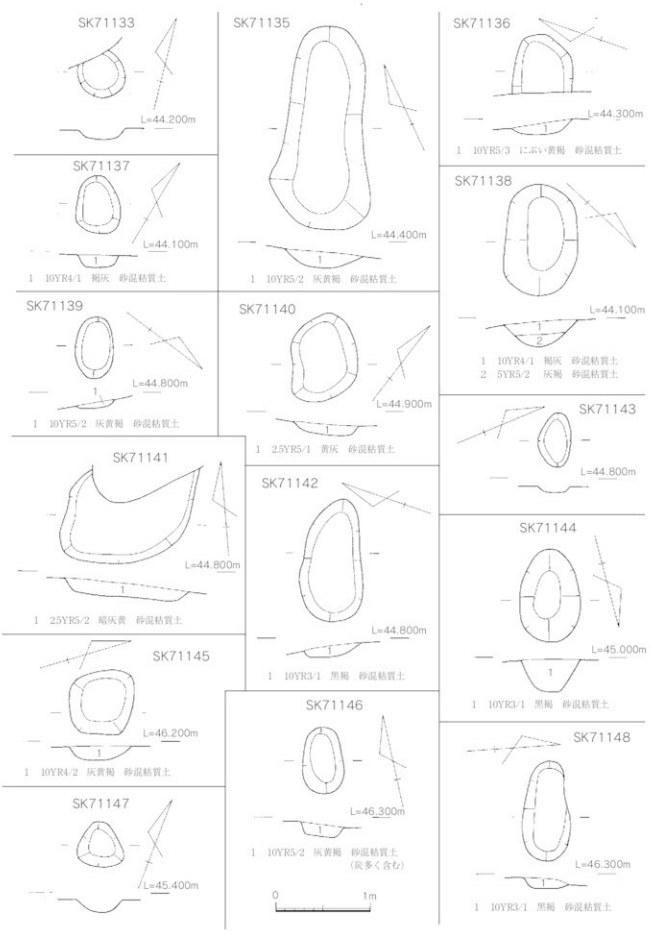
SK71149（第 31・33 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は不整形で，長辺 1.84 m，短辺 1.30 m，深さ 9cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。
出土遺物のうち図示できたものは第 33 図に掲載した。S49 はサヌカイトの剥片である。S50 はサヌカイト製の石鏃である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71150（第 31 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 64cm，短径 52cm，深さ 9cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は炭および焼土を多く含む褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71151（第 31 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は不整形で，長辺 1.39 m，短辺 66cm，深さ 8cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71152（第 31 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 96cm，短径 60cm，深さ 11cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71153（第 31 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。SK71154 に切られており，平面は不明であるが，長辺 1.74 m 以上，短辺 60cm 以上，深さ 8cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。



第 30 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑭

SK71154（第 31 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し，長辺 2.20 m，短辺 76cm，深さ 8cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71155（第 31 図）
調査区の北西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.24 m，短径 1.04 m，深さ 12cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK71156（第 31 図）
調査区の北西部で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈し，長辺 56cm，短辺 27cm，深さ 12cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71157（第 31 図）
調査区の北西部で検出した土坑である。平面はL字を呈し，長辺 80cm，短辺 19cm，深さ 18cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71158（第 31 図）
調査区の北西部で検出した土坑である。平面は不整形で，長辺 86cm，短辺 40cm，深さ 6cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SK71159（第 31 図）
調査区の北西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.08 m，短径 54cm，深さ 16cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は 2 層に分層できる。上層は灰黄褐色砂混粘質土，下層はにぶい黄橙色砂混粘質土である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

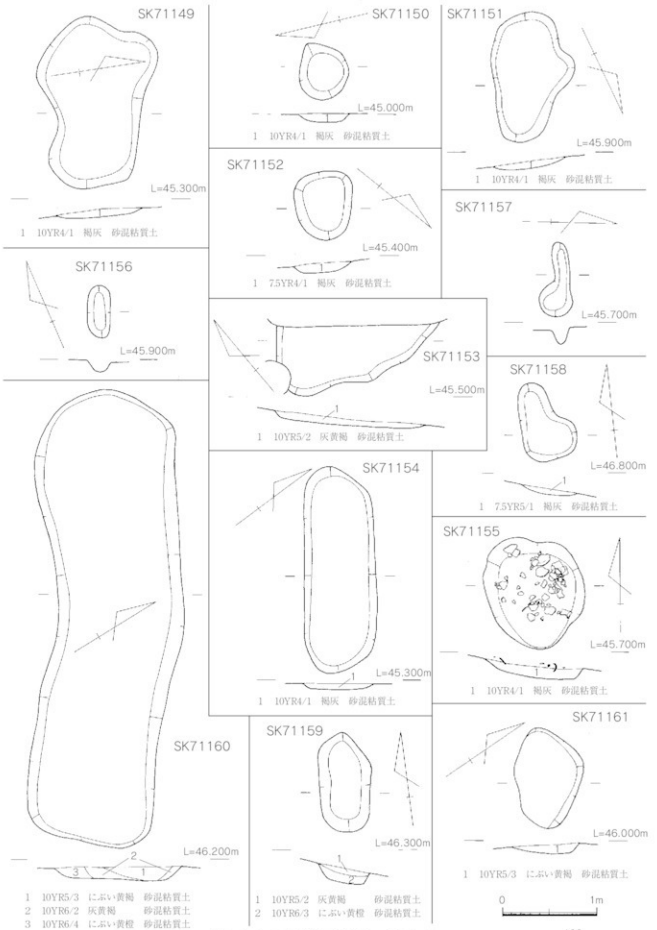
SK71160（第 31・33 図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面は溝状を呈し，長辺 4.97 m，短辺 1.29 m，深さ 15cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は 3 層に分層できる。上層はにぶい黄褐色砂混粘質土，中層は灰黄褐色砂混粘質土，下層はにぶい黄橙色砂混粘質土である。

出土遺物のうち図示できたものは第 33 図に掲載した。122 は弥生土器の広口壺である。内外面ともナデである。123 は弥生土器の底部である。外面はタテヘラミガキ，内面はナデである。底面もヘラミガキが施されている。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

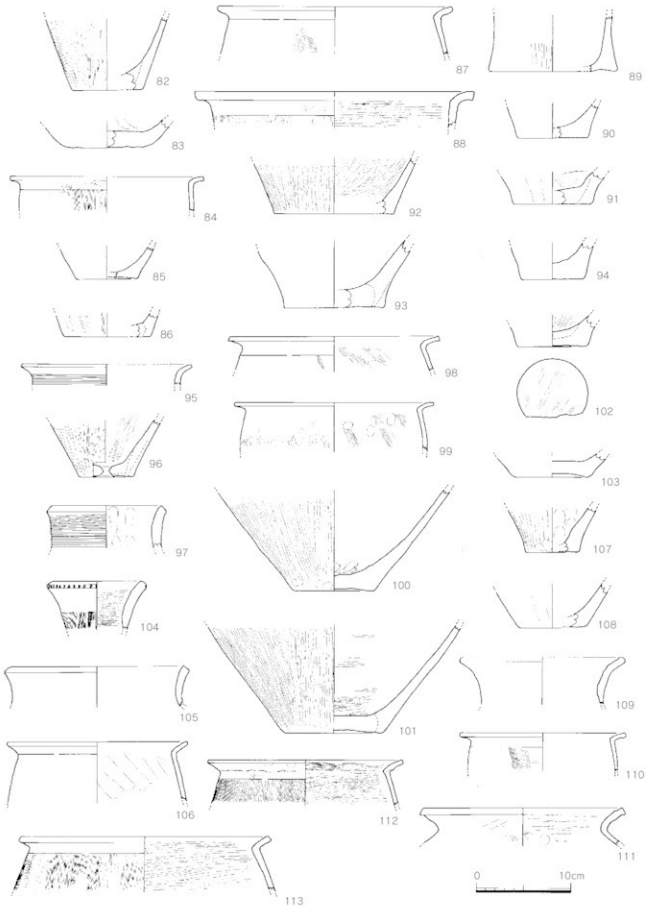
SK71161（第 31 図）
調査区の北西部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し，長径 1.09 m，短径 67cm，深さ 10cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土ははにぶい黄褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SD71001（第 34 図）
調査区の東部中央で検出した溝である。検出長 2.64 m，幅 48cm，深さ 4cm を測る。断面はレンズ状を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

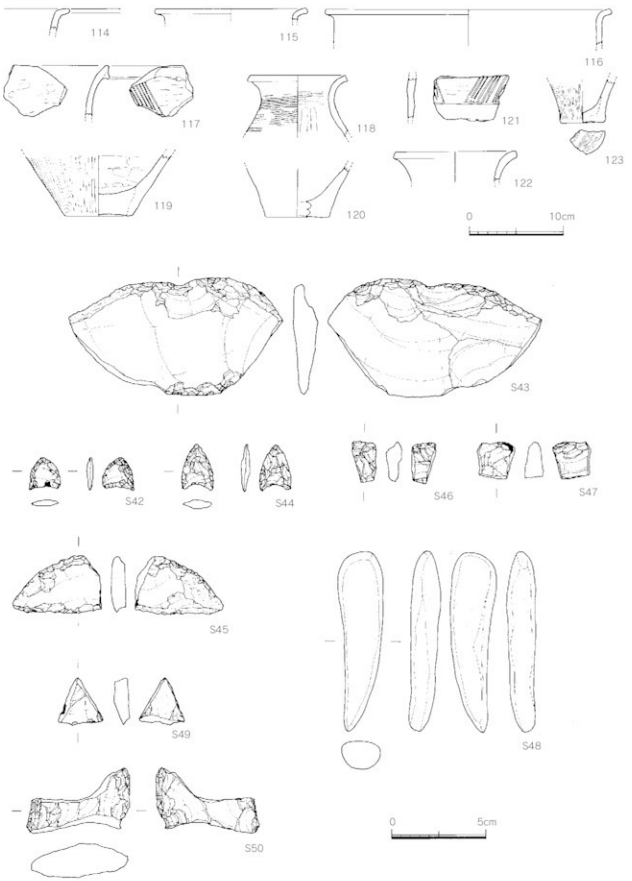
SD71002（第 34 図）
調査区の南部中央で検出した溝である。検出長 1.70 m，幅 23cm，深さ 4cm を測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。



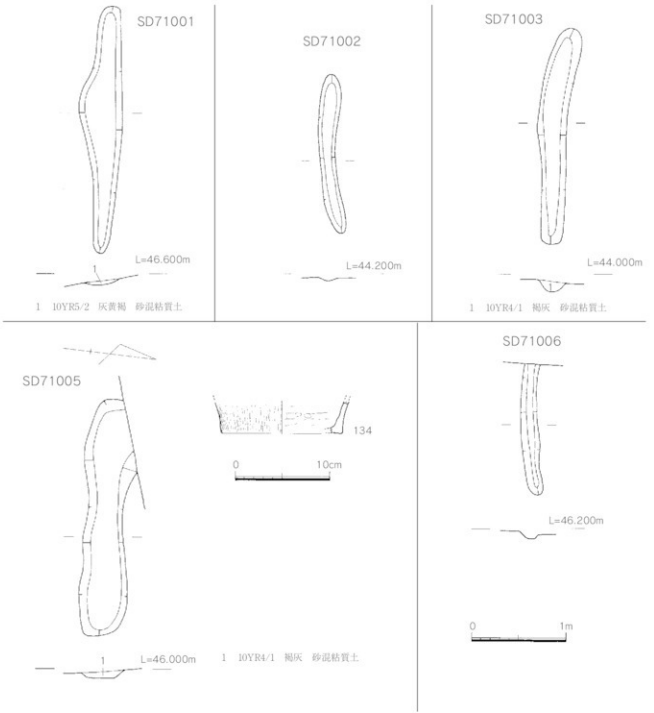
第 31 図　Ⅶ区検出土坑平・断面図⑮



第 32 図　土坑出土遺物実測図①



第 33 図　土坑出土遺物実測図②



第 34 図　SD71001 ～ 71003・71005・71006 平・断面図および SD71005 出土遺物実測図

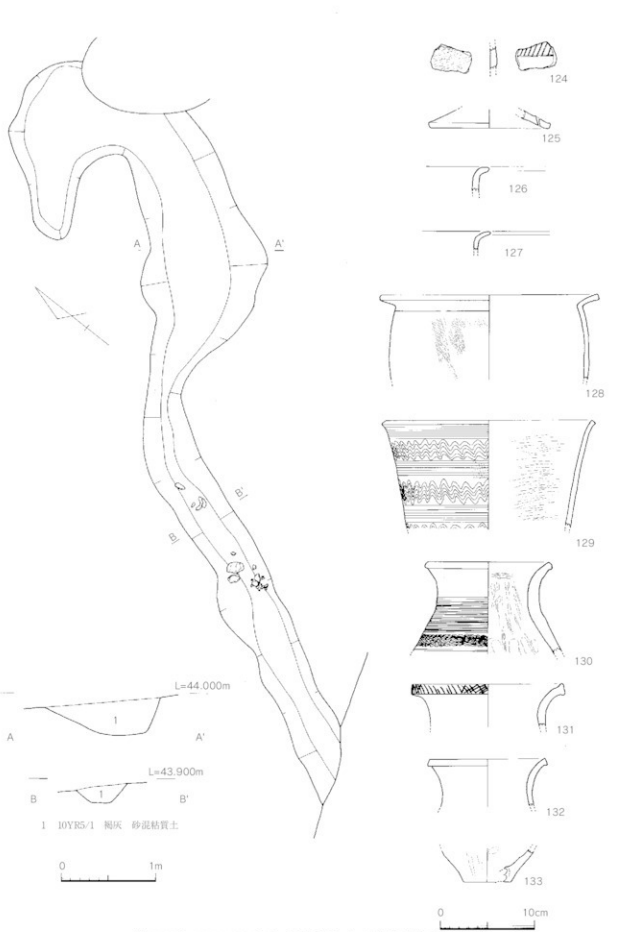
SD71003（第 34 図）

調査区の南部中央で検出した溝である。検出長 2.32 m，幅 32cm，深さ 12cm を測る。断面は U 字を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SD71004（第 35 図）

調査区の南西部で検出した溝である。SK71098 に切られているが，検出長 8.12 m，幅 1.35 m，深さ 36cm を測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。

出土遺物のうち図示できたものは第 35 図に掲載した。124 は体部片である。外面は摩滅が著しく調整不明であるが，内面は指頭圧のちヨコヘラミガキである。外面には横方向のヘラ描沈線が 1 条施され，その上部



第 35 図　SD71004 平・断面図および出土遺物実測図

に斜方向の沈線文が施されている。小片であるがSK71134出土の縄文系甕（117）と文様が酷似していることから縄文系甕の体部片と考えられる。125は弥生土器の蓋である。内外面ともナデである。126～128は弥生土器の甕である。いずれも摩滅が著しく調整は不明であるが，128の外面はタテハケである。129は弥生土器のバケツ型の鉢である。外面タテハケ，内面ヨコヘラミガキである。外面には8本1束の櫛描直線文と5本1束の櫛描波状文を交互に3条巡らせている。130は弥生土器の広口壺である。外面ナデ，内面タテヘラミガキのち指頭圧である。外面の頸部から体部上半にかけて9本1束の櫛描直線文と波状文をめぐらせている。131・132は弥生土器の広口壺である。いずれも摩滅が著しく調整は不明であるが，131の口縁端部に斜格子文が施されている。133は弥生土器の底部である。外面タテヘラミガキ，内面はナデと指頭圧である。弥生時代前期前半の縄文系甕が出土しているが，他の出土遺物は弥生時代中期前半のものであり，縄文系甕は混入品と考えられる。このため，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SD71005（第34図）

調査区の北部中央で検出した溝である。西端が調査区外に延びるが，検出長2.51m，幅62cm，深さ8cmを測る。断面は逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。

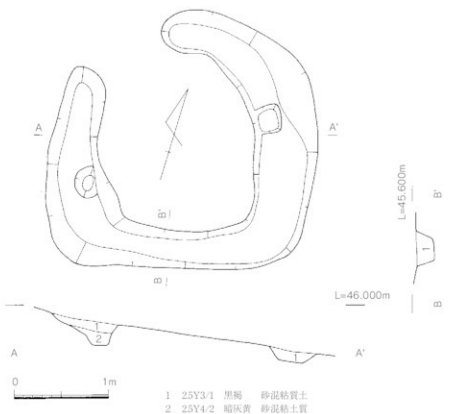
出土遺物は第34図134の弥生土器の底部のみである。外面タテヘラミガキ，内面指頭ナデである。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SD71006（第34図）

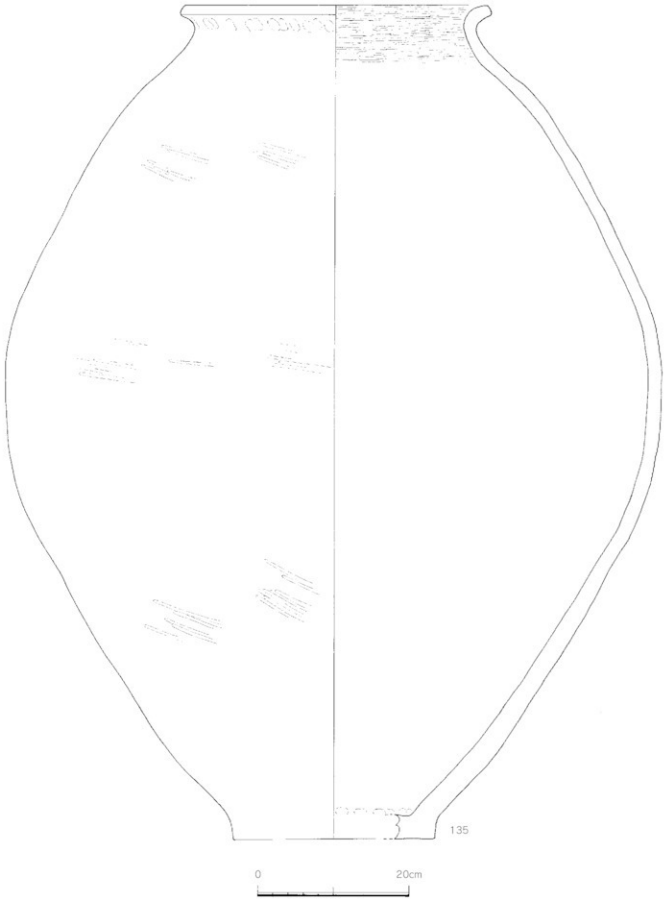
調査区の北西部で検出した溝である。北半が調査区外に延びるが，検出長1.40m，幅21cm，深さ8cmを測る。断面はU字を呈する。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。

SX71001（第36図）

調査区の東部中央で検出した方形周溝状の遺構である。北西の隅が途切れているが，幅40～80cm，深さ10～25cmの溝で形成されている。溝の断面は逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は黒褐色砂混粘質土，下層は暗灰黄色砂混粘質土である。溝を含めた平面規模は東西2.86m，南北2.76m，溝の内側では，東西1.65m，南北1.88mを測る。東辺と西辺の溝の内側にはそれぞれピット状に落ち込む箇所が認められた。東側のピットが隅丸方形を呈し，一辺30cm，深さ10cm，西側のピットが楕円形を呈し，長径35cm，短径30cm，深さ10cmを測る。遺物は出土しておらず，遺構の詳細な時期は不明である。



第36図　SX71001 平・断面図



第37図　Ⅲ・Ⅵ・Ⅶ区出土弥生土器実測図（S=1/5）

第４節　Ⅲ・Ⅵ・Ⅶ区出土の土器（第 37 図）

第 37 図 135 はⅢ・Ⅵ・Ⅶ区の包含層中および遺構埋土中に散在した状態で出土した土器である。特に緩斜面の下方に当たるⅢ・Ⅵ区において多く出土しているが，Ⅶ区での出土も認められることから，本来Ⅶ区に所在したものが斜面下方へ流れ込んだものと考えられる。弥生土器の大型の甕で，口径 40cm，底径 26.6cm，器高 110.5cm で，器壁も厚く 3cm を測る。外面調整は頸部から口縁部にかけて指頭圧で，体部はヨコヘラミガキである。内面調整は頸部から口縁部にかけて入念なヨコヘラミガキで，体部はナデである。散在した状態で出土していることから，用途等は不明である。

第４章　まとめ

奥の坊遺跡は，主に弥生時代中期前半の集落遺跡で，近世までの遺構・遺物を検出している。南向きの緩斜面に営まれた集落のほぼ全域を発掘調査しており，今回の報告書では，集落の最上部である北端部分しか紹介できていないが，本報告書で取り上げたⅦ区の変遷を取り上げたい。

弥生時代前期前半

当該期の明確な遺構は無いが，当該期の縄文系甕が SK71134・SK71138・SD71004 において１点ずつ出土している。出土地はⅦ区南西部に偏っている。他の調査区においても同時期の遺構・遺物は認められておらず，その出自ははっきりしない。

弥生時代中期前半

弥生時代前期前半の３点および中世の１点を除く残りの遺物はすべて当該期のものである。このため，遺構についてもほぼすべてが当該期の可能性が高い。明確な竪穴住居跡として SH71001 と SH71005 が所在する。多数の土坑も検出しており，集落域であることがうかがえる。試掘調査ではⅦ区より北側では，遺構が確認されておらず，集落域の北限と考えられる。

古墳時代後期

今回の調査では当該期の遺構・遺物は出土していないが，調査地付近はかつて奥ノ坊１号墳（旧名：奥ノ坊古墳）が所在したとされる。明確な位置は不明であるが，調査区東側尾根において奥ノ坊２～５号墳が新規に発見されていることから，同様の立地条件である調査区西側尾根上に所在した可能性が考えられる。

中世

土師器の皿が１点出土しているにすぎず，明確な遺構も見られない。

参考文献
大嶋和則 1999『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第１冊 奥の坊遺跡群Ⅰ』高松市教育委員会
大嶋和則 2000『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第２冊 川南・東遺跡』高松市教育委員会
大嶋和則 2004『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第２冊 奥の坊遺跡群Ⅱ』高松市教育委員会
大嶋和則 2004『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第３冊 奥の坊遺跡群Ⅲ』高松市教育委員会
大嶋和則 2004『高松市指定史跡 久本古墳』高松市教育委員会
大嶋和則 2006『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第４冊 奥の坊遺跡群Ⅳ』高松市教育委員会
大嶋和則 2006『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第５冊 奥の坊遺跡群Ⅴ』高松市教育委員会
大嶋和則 2007『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第６冊 奥の坊遺跡群Ⅵ』高松市教育委員会
大嶋和則 2009『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第７冊 奥の坊遺跡群Ⅶ』高松市教育委員会
片桐孝浩 1997『県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小山・南谷遺跡Ⅰ』香川県教育委員会
片桐孝浩 2006『県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小山・南谷遺跡Ⅱ』香川県教育委員会
木下晴一 2000『県道高松志度線緊急整備工事および県立医療短期大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 原中村遺跡』香川県教育委員会
蔵本晋司・森下友子 1992『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第１冊 東山崎・水田遺跡』香川県教育委員会
竺林徳（小竹一郎） 1955『高松市高松町すべり山出土弥生式遺物報告書』
末光甲正 2004『漆谷古墳群』高松市教育委員会
中西克也 2006『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第３冊 新田本村遺跡』高松市教育委員会
藤井雄三・山本英之 1989『久米池南遺跡跡発掘調査報告書』高松市教育委員会
藤好史郎 1997「屋嶋城と城山城 －古代山城研究の一視点－」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅴ』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
古高松郷土誌編集委員会 1977『古高松郷土誌』
牟礼町史編集委員会 1993『牟礼町史』
山元敏裕・末光甲正 1999『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第１冊 川南・西遺跡』高松市教育委員会
山元敏裕 2003『史跡天然記念物屋島 －史跡天然記念物屋島基礎調査事業調査報告書Ⅰ－』高松市教育委員会
山元敏裕 2008『屋嶋城跡Ⅱ －史跡天然記念物屋島基礎調査事業調査報告書Ⅱ－』高松市教育委員会

観　察　表

表3　土器観察表

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm) 口径	底径	器高	外面	内面	色調 (上＝外面・下＝内面)	胎土	焼成
1	弥生土器 底	7	包含層		7.6	(5.4)	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい黄橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
2	弥生土器 底	7	包含層		4.6	(4.4)	タテハケ 円孔2個1対2方	板ナデ	10YR5/1 褐灰 10YR5/1 褐灰	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
3	弥生土器 底	7	包含層			(1.2)	ナデ	ナデ	10YR6/6 明黄褐 10YR5/4 にぶい黄褐	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
4	弥生土器 壺	7	包含層	24.0		(4.1)	マメツ	マメツ	10YR6/8 赤橙 10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
5	弥生土器 壺	7	包含層	28.8		(4.4)	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙 5YR5/4 にぶい赤褐	やや密 2mm以下の石英・長石含む	良
6	弥生土器 壺	7	包含層	32.0		(4.8)	マメツ	マメツ	10YR3/1 黒褐 10YR3/1 黒褐	やや粗 3mm以下の石英・長石・雲母含む	良
7	弥生土器 壺	7	包含層	(8.8)		(4.7)	マメツ	マメツ	7.5YR5/3 にぶい褐 7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
8	弥生土器 壺	7	包含層	15.0		(3.1)	マメツ	マメツ	5YR5/6 明赤褐 5YR6/6 橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
9	弥生土器 壺	7	包含層	20.2		(1.7)	マメツ	マメツ	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
10	弥生土器 壺	7	包含層	16.6		(5.4)	タテハケのちナデ	タテヘラミガキ・ヨコヘラミガキ	2.5YS/6 明赤褐 5YR5/4 にぶい赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石・雲母含む	良
11	弥生土器 壺	7	包含層	18.8		(4.2)	タテのちヨコヘラミガキ	ヨコヘラミガキ	5YR6/6 橙 5YR6/6 橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
12	弥生土器 壺	7	包含層	19.2		(4.2)	マメツ	ヨコヘラミガキ	5YR6/6 橙 5YR5/4 にぶい赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
13	弥生土器 壺	7	包含層	15.8		(4.4)	指頭圧	ナデ	7.5YR7/8 黄橙 7.5YR7/8 黄橙	粗 1mm以下の石英・長石含む	良
14	弥生土器 壺	7	包含層			(5.4)	ヨコヘラミガキのち指頭圧	ヨコヘラミガキ・タテヘラミガキ	5YR7/4 にぶい橙 2.5YR5/6 明褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
15	弥生土器 壺	7	包含層			(6.2)	マメツ	マメツ	10YR8/4 浅黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗 3mm以下の長石・石英含む	良
16	弥生土器 壺	7	包含層			(10.8)	マメツ	マメツ	2.5YR6/6 橙 2.5YR6/4 にぶい橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
17	弥生土器 壺	7	包含層			(2.6)	マメツ	マメツ	2.5YR5/6 明赤褐 5YR6/4 橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
18	弥生土器 鉢	7	包含層	14.8		(3.9)	タテヘラミガキ	タテヘラミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR5/2 灰黄褐	密 1mm以下の石英・長石含む	良好
19	弥生土器 直口壺	7	包含層	11.8		(6.4)	マメツ	マメツ	5YR7/4 にぶい橙 5YR6/6 橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
20	弥生土器 広口壺	7	包含層	13.4		(3.8)	マメツ	マメツ	10YR4/2 灰黄褐 10YR4/2 灰黄褐	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
21	弥生土器 広口壺	7	包含層	18.8		(3.4)	マメツ	マメツ	5YR5/4 にぶい橙 5YR6/4 にぶい橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
22	弥生土器 直口壺	7	包含層	12.4		(3.2)	タテハケ	指頭圧	7.5YR6/6 橙 7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
23	弥生土器 広口壺	7	包含層	15.2		(2.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR7/6 橙 2.5YR6/6 橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
24	弥生土器 広口壺	7	包含層	11.0		(4.8)	タテハケのちヨコヘラミガキのち指頭圧	指頭圧・ナデ	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/6 橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
25	弥生土器 無頸壺	7	包含層	7.0		(3.4)	ナデ 底縁文・波状文	ヨコヘラミガキ	10YR8/4 浅黄橙 10YR8/4 浅黄橙	密 1mm以下の石英・長石含む	良好
26	弥生土器 高杯	7	包含層			(5.2)	マメツ	指頭圧	5YR5/6 明赤褐 5YR5/6 明赤褐	粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
27	弥生土器 脚錘車	7	包含層	5.6		1.5	マメツ	板ナデ	10YR5/2 灰黄褐 10YR5/2 灰黄褐	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
28	弥生土器 鉢	7	包含層		16.5	(6.5)	ヨコヘラミガキ	マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗 4mm以下の石英・長石含む	良
29	弥生土器 壺底部	7	包含層		5.2	(4.9)	タテヘラミガキ	マメツ 焼成前穿孔	7.5YR4/4 にぶい橙 7.5YR4/4 にぶい橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
30	弥生土器 底部	7	包含層		7.5	(4.4)	マメツ 焼成前穿孔	マメツ	5YR4/4 にぶい赤褐 5YR6/6 橙	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
31	弥生土器 底部	7	包含層		5.5	(3.1)	タテヘラミガキ 焼成後穿孔途中放棄	マメツ 焼成後穿孔途中放棄	5YR6/4 にぶい橙 5YR5/3 にぶい赤褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
32	弥生土器 底部	8	包含層		6.2	(4.7)	タテのちヨコヘラミガキ	タテハケ・指頭圧	7.5YR7/4 にぶい橙 10YR6/3 にぶい黄橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
33	弥生土器 底部	8	包含層		5.8	(5.2)	タテヘラミガキ	板ナデ・指頭圧	5YR6/8 橙 5YR5/6 明赤褐	粗 5mm以下の石英・長石含む	良好
34	弥生土器 底部	8	包含層		5.4	(5.1)	タテヘラミガキ	ナデ 煤化	10YR5/4 にぶい黄褐 5YR5/4 にぶい赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石・雲母含む	良
35	弥生土器 底部	8	包含層		8.0	(6.1)	タテヘラミガキ	ナデ 接合痕	7.5YR6/4 にぶい橙 5YR5/4 にぶい赤褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
36	弥生土器 底部	8	包含層		9.4	(4.8)	タテヘラミガキ	タテヘラミガキのち指頭圧	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR6/6 橙	やや粗 2mm以下の石英・長石・雲母含む	良
37	弥生土器 底部	8	包含層		9.8	(5.2)	タテヘラミガキ	ナデ	10YR6/1 褐灰 10YR7/2 灰黄褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
38	弥生土器 底部	8	包含層		5.4	(4.0)	マメツ	指頭ナデ	7.5YR5/8 明褐 10YR5/4 にぶい黄褐	粗 3mm以下の石英・長石含む	良
39	弥生土器 底部	8	包含層		10.4	(2.6)	ヘラミガキ	指頭圧のちヨコハケ	2.5YR5/8 明赤褐 7.5YR7/4 にぶい橙	やや密 2mm以下の石英・長石含む	良
40	弥生土器 底部	8	包含層		11.2	(4.8)	マメツ	マメツ	2.5YR7/2 灰白 10YR8/3 浅黄橙	やや密 2mm以下の石英・長石含む	良
41	弥生土器 底部	8	包含層		6.6	(6.5)	マメツ	マメツ	5YR6/6 橙 10YR4/2 灰黄褐	粗 4mm以下の石英・長石含む	良
42	弥生土器 底部	8	包含層		8.6	(4.9)	マメツ	マメツ	10YR6/8 赤橙 7.5YR7/4 にぶい橙	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
43	弥生土器 底部	8	包含層		6.6	(3.8)	マメツ	マメツ	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/6 橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
44	弥生土器 底部	8	包含層		5.6	(2.8)	マメツ	マメツ	2.5YR4/8 明赤褐 2.5YR7/6 橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
45	土師質土器 皿	8	包含層		7.0	1.4	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm) 口径	底径	器高	外面	内面	色調 (上＝外面・下＝内面)	胎土	焼成
46	弥生土器 底部	11	SH71001		9.7	(3.0)	タテヘラミガキ	ヨコハケのち指頭圧	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/6 橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
47	弥生土器 底部	11	SH71001		9.4	(2.4)	タテヘラミガキ	マメツ	7.5YR7/4 にぶい橙 2.5YR6/6 橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
48	弥生土器 壺	13	SH71005	19.2		(2.7)	ナデ 櫛描直線文	ヨコヘラミガキ	2.5YR4/4 にぶい赤褐 2.5YR5/6 明赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石・雲母含む	良
49	弥生土器 壺	13	SH71005	18.2		(4.1)	タテハケ	タテのちヨコヘラミガキのち指頭圧	5YR7/3 にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい赤褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
50	弥生土器 壺	13	SH71005	21.0		(4.7)	ナデ	板ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐 2.5YR5/6 明赤褐	やや粗 3mm以下の石英・長石・雲母含む	良
51	弥生土器 壺	13	SH71005	21.4		(6.7)	マメツ	マメツ	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙	密 1mm以下の石英・長石含む	良
52	弥生土器 壺	13	SH71005	26.0		(4.0)	マメツ	マメツ	10YR4/3 にぶい黄褐 10YR5/3 にぶい黄橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
53	弥生土器 壺	13	SH71005	12.0		(1.5)	マメツ	マメツ	7.5YR6/6 橙 7.5YR7/6 橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
54	弥生土器 無頸壺	13	SH71005	8.4		(5.3)	タテハケ 櫛描直線文	指頭圧	10R5/6 赤 2.5YR5/6 明赤褐	やや粗 5mm以下の石英・長石・雲母含む	良
55	弥生土器 広口壺	13	SH71005	10.0		(4.6)	指頭圧	指頭圧	7.5YR7/6 橙 10YR7/4 にぶい黄橙	密 1mm以下の石英・長石含む	良
56	弥生土器 広口壺	13	SH71005	12.8		(2.5)	指頭圧	マメツ	7.5YR6/8 橙 7.5YR6/8 橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
57	弥生土器 広口壺	13	SH71005	15.0		(1.6)	ナデ・指頭圧 斜格子文	ヨコヘラミガキ	5YR4/6 赤褐 5YR4/6 赤褐	やや粗 1mm以下の石英・長石・雲母含む	良好
58	弥生土器 広口壺	13	SH71005	24.4		(1.7)	ナデ	ナデ	10YR4/3 にぶい黄褐 7.5YR5/3 にぶい褐	粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
59	弥生土器 広口壺	13	SH71005	21.7		(2.0)	マメツ	マメツ	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/6 橙	粗 1mm以下の石英・長石含む	良
60	弥生土器 広口壺	13	SH71005	18.2		(4.8)	マメツ	マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR5/3 にぶい褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
61	弥生土器 広口壺	13	SH71005	16.0		(5.4)	マメツ 刺目	マメツ	7.5YR7/8 黄橙 2.5YR7/8 黄橙	粗 2mm以下の石英・長石含む	良
62	弥生土器 底部	13	SH71005		8.4	(7.1)	タテのちヨコヘラミガキ	マメツ	5YR5/4 にぶい赤褐 10YR4/1 褐灰	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
63	弥生土器 底部	13	SH71005		6.8	(5.3)	マメツ	マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙 5YR6/6 橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
64	弥生土器 底部	13	SH71005		9.4	(3.8)	マメツ	マメツ	5YR6/6 橙 2.5YR5/6 明赤褐	粗 5mm以下の石英・長石・雲母含む	良
65	弥生土器 底部	13	SH71005		5.3	(5.4)	マメツ	マメツ	2.5YR4/6 赤褐 5YR6/8 橙	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
66	弥生土器 底部	13	SH71005		7.0	(3.4)	マメツ	マメツ	7.5TR3/3 暗褐 7.5YR7/3 褐灰	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
67	弥生土器 底部	13	SH71005		6.2	(6.7)	ナデ	マメツ 刺目	2.5YR5/6 明褐 5YR5/6 明赤褐	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
68	弥生土器 底部	13	SH71005		8.4	(3.5)	タテハケ	指頭圧	10YR6/4 にぶい黄橙 10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗 5mm以下の石英・長石含む	良好
69	弥生土器 底部	13	SH71005		5.0	(4.5)	タテヘラミガキ	ナデ・指頭圧	7.5YR6/6 橙 10YR6/4 にぶい黄橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
70	弥生土器 底部	13	SH71005		5.4	(3.1)	マメツ	マメツ 密	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR5/3 にぶい褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
71	弥生土器 底部	13	SH71005		4.4	(3.0)	ナデ	ナデ 焼成前穿孔	7.5YR4/3 褐 5YR6/4 にぶい橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
72	弥生土器 底部	13	SH71005		4.4	(2.0)	タテヘラミガキ	ナデ	10YR3/3 暗褐 5YR6/6 橙	やや密 1mm以下の石英・長石・雲母含む	良
73	弥生土器 広口壺	13	SH71005	16.8		(13.9)	ヨコヘラミガキ 沈線1条・櫛描直線文	ナデ	2.5YR4/8 赤褐 5YR5/6 明赤褐	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
74	弥生土器 壺	15	SH71006	21.2		(10.5)	タテハケ	ヨコヘラミガキ・タテヘラミガキ	7.5YR6/4 にぶい橙 5YR5/6 明赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
75	弥生土器 底部	15	SH71006		10.0	(5.8)	タテヘラミガキ	マメツ	7.5YR6/8 橙 7.5YR6/6 橙	やや粗 4mm以下の石英・長石含む	良
76	弥生土器 底部	15	SH71006		4.2	(4.4)	マメツ	マメツ	7.5YR6/6 明褐 7.5YR5/6 明褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
77	弥生土器 底部	16	SH71007		5.8	(1.7)	ナデ	マメツ	2.5YR5/6 明赤褐 2.5YR5/6 明赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石・雲母含む	良
78	弥生土器 鉢	16	SH71007	25.9		(3.3)	板ナデ	ヨコヘラミガキ	5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐	粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
79	弥生土器 底部	16	SH71007		5.8	(3.2)	タテヘラミガキ	ナデ	5YR7/4 にぶい橙 10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
80	弥生土器 底部	16	SH71007		6.0	(4.3)	マメツ	ナデ	7.5YR7/6 橙 7.5YR5/4 にぶい褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
81	弥生土器 底部	16	SH71007		8.4	(5.0)	マメツ	マメツ	5YR4/6 赤褐 7.5YR4/3 褐	粗 6mm以下の石英・長石含む	良
82	弥生土器 底部	32	SK71015		7.4	(7.5)	タテヘラミガキ	板ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR5/4 にぶい褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
83	弥生土器 底部	32	SK71028		7.6	(2.9)	マメツ	指頭ナデ 密	10YR6/4 にぶい黄橙 10YR4/1 褐灰	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
84	弥生土器 壺	32	SK71046	20.2		(3.7)	タテハケ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR7/6 橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
85	弥生土器 底部	32	SK71046		6.2	(3.4)	マメツ	マメツ	5YR6/8 橙 2.5YR6/4 にぶい橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
86	弥生土器 底部	32	SK71057		9.0	(2.6)	タテヘラミガキ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙 10YR5/4 にぶい黄褐	粗 4mm以下の石英・長石含む	良好
87	弥生土器 壺	32	SK71073	24.8		(5.0)	タテハケ	マメツ	5YR6/6 橙 7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
88	弥生土器 壺	32	SK71073	29.2		(3.9)	タテハケ	ヨコヘラミガキ	5YR6/6 橙 5YR6/6 橙	密 1mm以下の石英・長石含む	良
89	弥生土器 鉢	32	SK71077		13.2	(5.8)	タテヘラミガキ	マメツ	5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
90	弥生土器 底部	32	SK71077		7.2	(3.3)	マメツ	マメツ	7.5YR5/3 にぶい褐 7.5YR5/3 にぶい褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
91	弥生土器 底部	32	SK71077		9.9	(3.5)	指頭ナデ	板ナデ 接合痕	2.5YR5/6 明赤褐 7.5YR5/6 明褐	粗 3mm以下の石英・長石含む	良好

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)			外面	内面	色調 (上＝外面・下＝内面)	胎土	焼成
				口径	底径	器高					
92	弥生土器 底部	32	SK71077		12.4	(6.0)	タテヘラミガキ	ヨコのちタテヘラミガキ	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR5/4 にぶい褐	やや密 1mm以下の石英・長石・雲母含む	良好
93	弥生土器 底部	32	SK71077		10.6	(7.1)	マメツ	マメツ	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR5/3 にぶい褐	粗 5mm以下の石英・長石・雲母含む	良
94	弥生土器 底部	32	SK71088		6.4	(3.9)	マメツ	マメツ	5YR6/8 橙 5YR6/6 橙	粗 5mm以下の石英・長石・雲母含む	良
95	弥生土器 甕	32	SK71089	18.0		(2.3)	マメツ 櫛描直線文	ナデ	10R5/6 赤 7.5YR4/4 褐	やや密 2mm以下の石英・長石含む	良
96	弥生土器 底部	32	SK71109		5.8	(6.0)	タテヘラミガキ 焼成前穿孔	タテヘラミガキ	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR5/2 灰黄褐	やや粗 3mm以下の石英・長石・雲母含む	良
97	弥生土器 細頸壺	32	SK71114	11.6		(4.5)	ナデ 櫛描直線文	指頭ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐 7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗 3mm以下の石英・長石・雲母含む	良
98	弥生土器 甕	32	SK71114	22.2		(3.7)	タテハケ	タテハケのち指頭圧	5YR4/4 にぶい赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
99	弥生土器 甕	32	SK71114	20.6		(5.6)	タテハケ	タテハケのち指頭圧	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/8 橙	やや密 1mm以下の石英・長石・雲母含む	良好
100	弥生土器 底部	32	SK71117		8.4	(10.6)	指頭圧のちタテヘラミガキ	指頭圧	2.5Y5/6 明赤褐 2.5Y5/6 明赤褐	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
101	弥生土器 底部	32	SK71120		10.0	(11.4)	タテヘラミガキ	ヨコヘラミガキ	7.5YR5/4 にぶい褐 5YR6/8 橙	粗 5mm以下の石英・長石含む	良好
102	弥生土器 底部	32	SK71121		7.4	(3.3)	ヘラミガキ	タテヘラミガキ	7.5YR5/4 にぶい褐 5YR4/6 赤褐	やや密 3mm以下の石英・長石含む	良
103	弥生土器 底部	32	SK71125		8.4	(2.5)	ナデ	ナデ	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/8 橙	粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
104	弥生土器 細頸壺	32	SK71126	9.2		(5.2)	タテハケ 刻目	ヨコヘラミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR6/3 にぶい黄橙	やや密 2mm以下の石英・長石含む	良好
105	弥生土器 広口壺	32	SK71126	18.0		(4.3)	ナデ	ナデ	2.5YR6/6 橙 2.5YR6/6 橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
106	弥生土器 甕	32	SK71126	19.0		(6.5)	ナデ	板ナデ	7.5YR7/6 橙 5YR6/6 橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
107	弥生土器 底部	32	SK71127		5.6	(4.8)	タテヘラミガキのち指頭圧	指頭圧	5YR4/3 にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい赤褐	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
108	弥生土器 底部	32	SK71127		6.8	(4.7)	板ナデ	ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐 5YR3/3 暗赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
109	弥生土器 広口壺	32	SK71127	17.0		(5.0)	マメツ	マメツ	5YR3/4 暗赤褐 2.5YR4/4 にぶい赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
110	弥生土器 甕	32	SK71127	17.4		(4.0)	タテハケ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄橙 5YR5/6 明赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
111	弥生土器 甕	32	SK71127	21.0		(4.0)	タテヘラミガキ	ヨコヘラミガキのち指頭圧	2.5YR4/2 灰赤 2.5YR3/3 暗赤褐	やや粗 5mm以下の石英・長石・雲母含む	良
112	弥生土器 甕	32	SK71128	20.4		(4.8)	指頭圧・タテハケ	ヨコハケ・タテハケのちヨコヘラミガキ	5YR6/6 橙 2.5YR6/6 橙	密 1mm以下の石英・長石含む	良好
113	弥生土器 甕	32	SK71128	26.0		(5.8)	タテハケ	ヨコヘラミガキ	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR5/4 にぶい褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
114	弥生土器 甕	33	SK71132			(2.5)	マメツ	マメツ	7.5YR5/6 明褐 7.5YR6/6 橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
115	弥生土器 甕	33	SK71132	16.0		(1.3)	マメツ	マメツ	5YR4/6 赤褐 5YR4/6 赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
116	弥生土器 甕	33	SK71132	30.0		(3.8)	マメツ	マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙 7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
117	弥生土器 甕	33	SK71134				ヨコヘラケズリ 貼付突帯1条・沈線文	ヨコヘラケズリのち指頭圧	5YR5/6 明赤褐 5YR5/6 明赤褐	粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
118	弥生土器 広口壺	33	SK71134	10.0		(6.6)	タテハケ 櫛描直線文・櫛描波状文	ヨコヘラミガキ・指頭圧	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	密 1mm以下の石英・長石含む	良好
119	弥生土器 底部	33	SK71134		7.0	(16.4)	タテヘラミガキ	板ナデのち指頭圧	5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗 5mm以下の石英・長石含む	良
120	弥生土器 底部	33	SK71134		6.6	(5.1)	マメツ	ナデ	5YR6/6 橙 5YR6/6 橙	やや粗 3mm以下の石英・長石・雲母含む	良
121	弥生土器 体部片	33	SK71138			(4.6)	ヘラミガキ 沈線文	マメツ	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/6 橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
122	弥生土器 広口壺	33	SK71160	12.6		(3.2)	ナデ	ナデ	2.5Y4/1 黄灰 2.5Y4/1 黄灰	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
123	弥生土器 底部	33	SK71160		5.6	(4.6)	タテヘラミガキ	ナデ	2.5YR4/6 赤褐 2.5YR3/3 暗赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
124	弥生土器 体部片	35	SD71004			(2.5)	マメツ 沈線文	指頭圧のちヨコヘラミガキ	7.5YR5/6 明褐 7.5YR4/6 褐	粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
125	弥生土器 蓋	35	SD71004		12.4	(1.9)	ナデ 円孔	ナデ	2.5YR6/6 橙 2.5YR6/6 橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
126	弥生土器 甕	35	SD71004			(2.7)	マメツ	マメツ	10YR7/4 にぶい黄橙 7.5YR6/4 にぶい橙	やや密 2mm以下の石英・長石含む	良
127	弥生土器 甕	35	SD71004			(2.1)	マメツ	マメツ	5YR6/6 橙 5YR6/6 橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
128	弥生土器 甕	35	SD71004	22.7		(9.0)	タテハケ	マメツ	5YR6/6 橙 10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
129	弥生土器 鉢	35	SD71004	21.7		(11.4)	タテハケ 櫛描直線文3条・櫛描波状文3条	ヨコヘラミガキ	7.5YR6/8 橙 7.5YR6/8 橙	粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
130	弥生土器 広口壺	35	SD71004	12.6		(9.7)	ナデ 櫛描直線文3条・櫛描波状文1条	タテヘラミガキのち指頭圧	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR6/4 にぶい橙	やや密 2mm以下の石英・長石含む	良好
131	弥生土器 広口壺	35	SD71004	16.2		(4.6)	マメツ 斜格子文	マメツ	10R5/6 赤 7.5YR4/3 褐	やや粗 6mm以下の石英・長石含む	良
132	弥生土器 広口壺	35	SD71004	12.2		(5.1)	マメツ	マメツ	2.5YR6/6 橙 2.5YR6/6 橙	やや粗 1mm以下の石英・長石・雲母含む	良
133	弥生土器 底部	35	SD71004		5.0	(3.5)	タテヘラミガキ	ナデ・指頭圧	7.5YR6/4 にぶい橙 5YR6/6 橙	やや粗 6mm以下の石英・長石・雲母含む	良
134	弥生土器 底部	34	SD71005		12.4	(3.4)	タテヘラミガキ	指頭ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
135	弥生土器 甕	37	Ⅲ～Ⅷ区	40.0	26.6	110.5	指頭圧・ヨコヘラミガキ	ヨコヘラミガキ・ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙 7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗 5mm以下の石英・長石含む	良好

表4 石器観察表

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)				石材	特徴
				長	幅	厚	重量(g)		
1	石鏃	8	包含層	2.5	1.2	0.4	1.1	サヌカイト	完形品。凸基式。両面より細かく調整。
2	石鏃	8	包含層	2.6	0.8	0.5	1.0	サヌカイト	完形品。細身の形態。両面より細かく調整。
3	石鏃	8	包含層	2.0	1.5	0.3	0.9	サヌカイト	先端部と基部を欠く。両面より細かく調整。
4	石鏃	8	包含層	3.5	1.7	0.4	1.8	サヌカイト	完形品。凹基式。両面より細かく調整。
5	石鏃	8	包含層	2.4	1.6	0.5	1.6	サヌカイト	完形品。凹基式。両面より細かく調整。
6	石鏃	8	包含層	1.7	1.4	0.4	0.6	サヌカイト	凹基式。両面より細かく調整。
7	石鏃未成品	8	包含層	2.2	1.5	0.4	1.3	サヌカイト	先端部を欠く。全体に粗い調整。
8	石鏃未成品	8	包含層	2.7	1.5	0.3	1.2	サヌカイト	わずかに調整痕あり。
9	石鏃未成品	8	包含層	2.8	2.1	0.7	2.1	サヌカイト	凹基式。片面のみ調整。
10	石槍	8	包含層	3.5	3.1	0.9	8.4	サヌカイト	基部のみ残る。両面より調整。
11	石包丁	8	包含層	4.0	3.4	0.7	10.1	サヌカイト	両面より細かく調整。
12	石包丁	8	包含層	2.6	4.4	1.0	7.9	サヌカイト	側縁部のみ残る。抉りをもつ。
13	石包丁	8	包含層	10.8	4.8	1.6	96.9	安山岩	刃部をわずかに調整。
14	削器	8	包含層	3.5	3.0	0.9	11.4	サヌカイト	両面より細かく調整。自然面を残す。
15	削器	8	包含層	1.9	3.6	0.7	3.9	サヌカイト	一部のみ残る。両面より調整。
16	削器	8	包含層	4.4	2.2	0.5	5.6	サヌカイト	わずかに刃部をつくる。
17	剥片	9	包含層	4.3	3.0	0.5	4.8	サヌカイト	わずかに調整痕あり。
18	剥片	9	包含層	3.5	3.1	0.8	8.2	サヌカイト	一部に調整痕あり。
19	剥片	9	包含層	3.0	3.9	0.5	6.4	サヌカイト	わずかに調整痕あり。
20	素材剥片	9	包含層	12.5	10.7	1.3	123.4	サヌカイト	白色風化面を残す。
21	石鍬	9	包含層	4.8	5.0	2.5	92.8	サヌカイト	一部のみ残る。
22	剥片	9	包含層	3.8	2.1	0.5	2.3	サヌカイト	調整痕あり。石鏃未製品の可能性あり。
23	剥片	9	包含層	2.8	1.3	0.6	1.8	サヌカイト	わずかに調整痕あり。
24	剥片	9	包含層	3.3	2.4	0.9	8.6	サヌカイト	調整痕あり。
25	剥片	9	包含層	2.6	4.3	0.9	11.7	サヌカイト	わずかに調整痕あり。
26	剥片	9	包含層	2.8	2.7	0.7	4.2	サヌカイト	調整痕あり。
27	柱状片刃石斧	9	包含層	8.1	2.7	1.7	74.2	緑泥片岩	擦痕あり。
28	石皿	9	包含層	11.5	5.5	2.2	191.2	砂岩	擦痕あり。
29	砥石	9	包含層	14.0	5.7	10.7	923.2	砂岩	凹みあり。
30	打製石剣	14	SH71005	7.4	4.6	1.0	34.4	サヌカイト	石包丁を転用。
31	剥片	14	SH71005	4.6	2.8	1.2	14.4	サヌカイト	一部に調整痕あり。石錐未製品の可能性あり。
32	石錐	14	SH71005	2.3	1.1	0.3	0.7	サヌカイト	両面より細く調整。
33	削器	14	SH71005	3.3	2.8	0.4	4.7	サヌカイト	全体に粗い調整。
34	削器	14	SH71005	2.1	3.3	0.5	3.2	サヌカイト	両面より細かく調整。
35	削器	14	SH71005	4.3	3.5	0.9	13.0	サヌカイト	両面より調整。
36	剥片	14	SH71005	5.5	2.5	1.1	12.2	サヌカイト	わずかに調整痕あり。
37	凹石	14	SH71005	5.1	6.4	3.7	142.8	砂岩	敲打痕あり。
38	磨石	14	SH71005	8.1	3.9	3.0	111.4	砂岩	一部のみ残る。
39	磨石	14	SH71005	9.6	5.9	2.6	241.0	砂岩	完形品。
40	扁平片刃石斧	14	SH71005	8.2	6.9	1.9	180.3	安山岩	未製品。刃部に擦痕あり。
41	磨石	16	SH71007	6.5	5.0	6.4	244.9	砂岩	一部のみ残る。
42	石鏃	33	SK71085	1.7	1.7	0.4	0.9	サヌカイト	凹基式。両面より細かく調整。
43	削器	33	SK71088	11.3	6.3	1.4	91.7	サヌカイト	両側縁部に切断面を残す。
44	石鏃	33	SK71088	2.5	1.7	0.5	1.3	サヌカイト	凹基式。完形品。白色風化。両面より細かく調整。
45	石包丁	33	SK71117	4.7	3.1	0.8	13.0	サヌカイト	剥離面を利用し,刃部をつくる。自然面を残す。
46	削器	33	SK71123	1.4	2.2	0.8	2.5	サヌカイト	両面より細かく調整。
47	剥片	33	SK71127	2.0	2.0	1.0	5.9	サヌカイト	白色風化。調整痕あり。
48	柱状片刃石斧	33	SK71132	9.6	2.5	1.6	41.9	安山岩	未製品。刃部のみ調整。
49	剥片	33	SK71149	2.4	2.5	0.8	4.8	サヌカイト	わずかに調整痕あり。
50	石鍬	33	SK71149	2.3	5.5	1.9	28.5	サヌカイト	一部のみ残る。

写真図版

写真１　Ⅵ・Ⅶ区全景（上側の調査区がⅦ区）

写真２　調査前状況（北から）

写真３　機械掘削状況（北から）

写真４　完掘状況（北西から）

写真５　調査区南壁土層断面（西から）

写真６　包含層掘削風景

写真７　遺構検出作業風景

写真８　実測風景

写真９　SH71001 土層断面（南から）

写真 10　SH71001 完掘状況（北から）

写真 11　SH71002 土層断面（南から）

写真 12　SH71003 完掘状況（南東から）

写真 13　SH71005 土層断面（南東から）

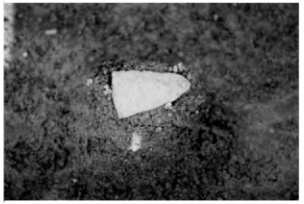


写真 14　SH71005 石剣出土状況（南西から）

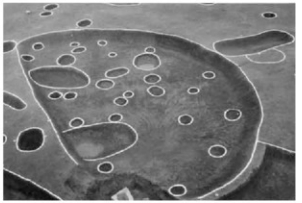


写真 15　SH71005 完掘状況（南から）

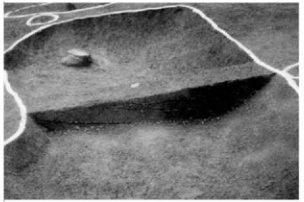


写真 16　SH71006 土層断面（北東から）

写真 17　SH71007 完掘状況（南東から）

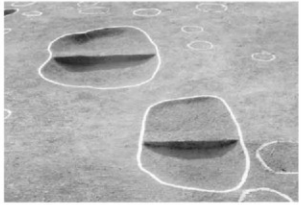


写真 18　SK71005·SK71006 土層断面（北東から）

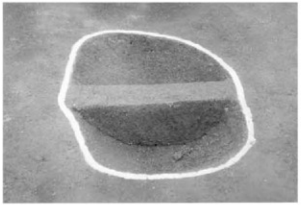


写真 19　SK71011 土層断面（南から）

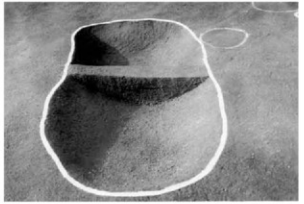


写真 20　SK71014 土層断面（南東から）

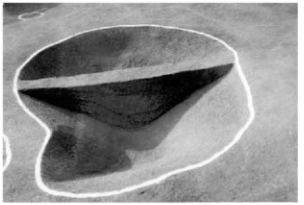


写真 21　SK71015 土層断面（東から）

写真 22　SK71014·SK71015 完掘状況（北東から）

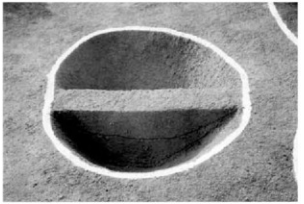


写真 23　SK71016 土層断面（東から）

写真 24　SK71046 土層断面（北から）

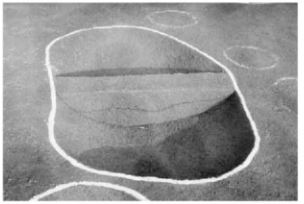


写真 25　SK71061 土層断面（南西から）

写真 26　SK71074 土層断面（西から）

写真 27　SK71076 土層断面（南から）

写真 28　SK71077 土層断面（南から）

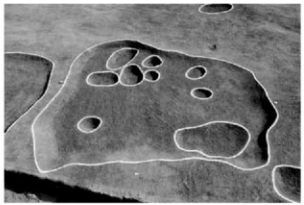


写真 29　SK71077 完掘状況（北から）

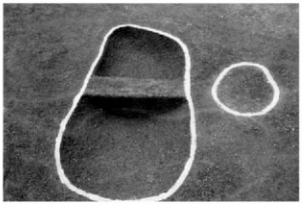


写真 30　SK71097 土層断面（東から）

写真 31　SK71104･SK71105 土層断面（東から）

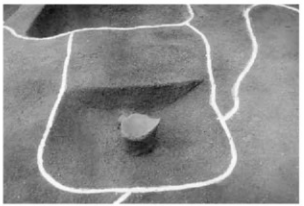


写真 32　SK71117 土層断面（東から）

写真 33　SK71117 完掘状況（東から）

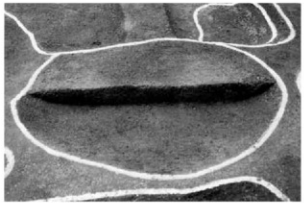


写真 34　SK71119 土層断面（東から）

写真 35　SK71120 土層断面（南から）

写真 36　SK71126 土層断面（西から）

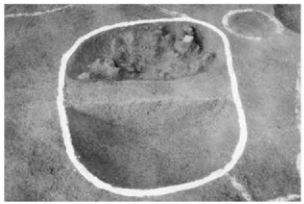


写真 37　SK71127 土層断面（南から）

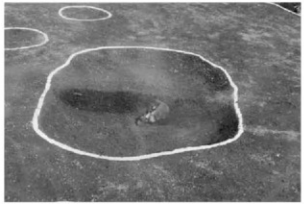


写真 38　SK71132 土層断面（北東から）

写真 39　SK71134 土層断面（東から）

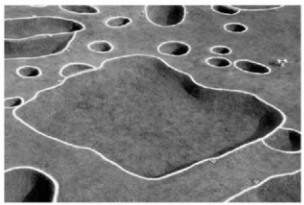


写真 40　SK71134 完掘状況（南から）

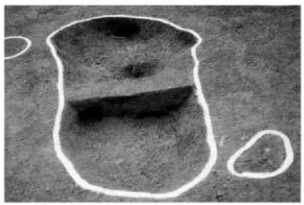


写真 41　SK71135 土層断面（北から）

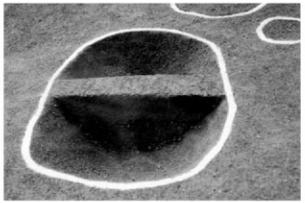


写真 42　SK71138 土層断面（北東から）

写真 43　SK71159 土層断面（南から）

写真 44　SK71160 土層断面（南東から）

写真 45　SD71004 土層断面（北から）

写真 46　SD71004 土器出土状況（東から）

写真 47　SD71004 完掘状況（西から）

写真 48　SX71001 土層断面（南から）

写真 49　SX71001 完掘状況（北西から）

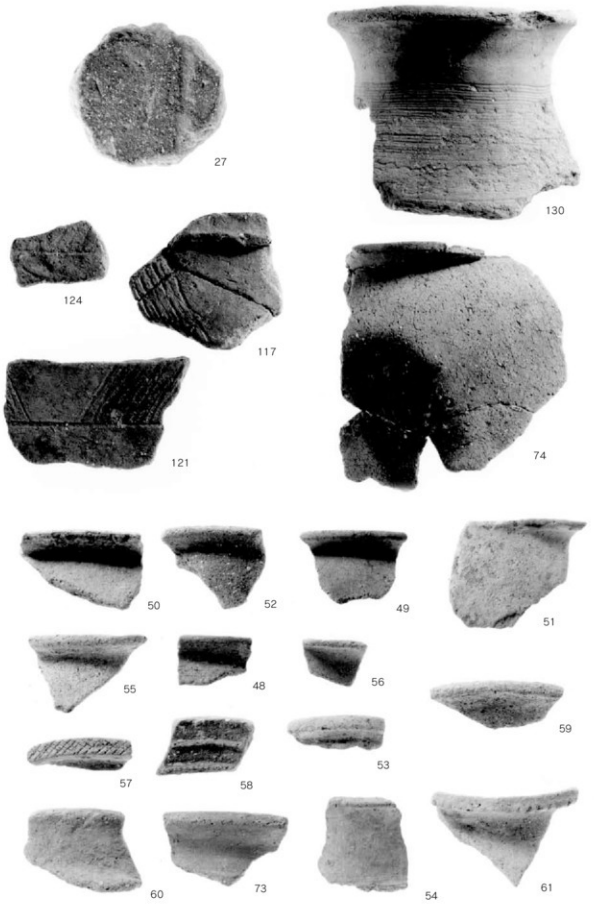


写真 50　Ⅶ区出土遺物①

写真51　Ⅶ区出土遺物②

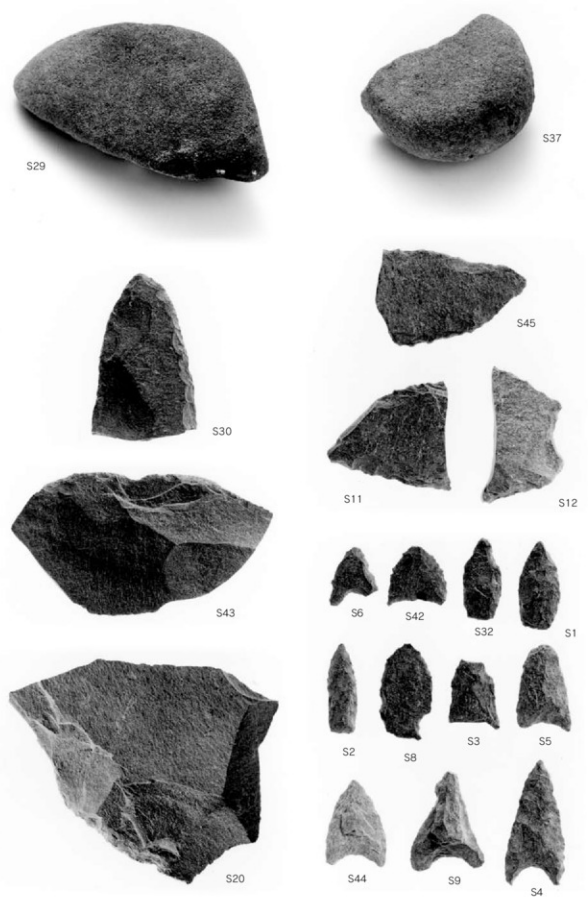


写真52　Ⅶ区出土遺物③

報 告 書 抄 録

ふりがな	おくのぼういせきぐんⅧ（おくのぼういせきⅦく）
書名	奥の坊遺跡群Ⅷ（奥の坊遺跡Ⅶ区）
副書名	高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第８冊
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第126集
編著者名	大嶋 和則
編集機関	高松市教育委員会
所在地	〒760－8571　香川県高松市番町一丁目８番15号　　TEL087－839－2660
発行年月日	西暦2010年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
おくのぼういせき 奥の坊遺跡	かがわけん 香川県 たかまつし 高松市 たかまつちょう 高松町	37201		34° 19′ 30″	134° 07′ 30″	1999.11.10 ～ 2000.3.3	1,200㎡	高松市東部運動公園整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
奥の坊遺跡	集落	弥生	竪穴住居跡 土坑	弥生土器，石器	

要約	奥の坊遺跡は高松平野の東を画する丘陵部に所在する。南向きの緩斜面に営まれた弥生時代中期前半の集落跡で，古代や近世の遺構も見られる。本書は，遺跡北部の北端にあたるⅦ区の報告書である。緩斜面に営まれた集落域の最上部にあたり，竪穴住居跡や土坑を検出した。

高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第８冊

奥の坊遺跡群Ⅷ

（奥の坊遺跡 Ⅶ区）

平成22年３月31日

編　集　高松市教育委員会
　　高松市番町一丁目８番15号
発　行　高松市教育委員会
印　刷　有限会社 中央ファイリング